

和仏法律学校講義録

杉本, 貞治郎 / 有賀, 長文 / 加藤, 正治 / 金井, 延 / 高野, 岩三郎 / 鈴木, 宗言

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-5

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

47

(発行年 / Year)

1899-04-10

編輯用

和佛經濟學綱要

講義筆記

每月貳回

第五號

目次

經	經	破	商	海	工
濟	濟	產	法	商	業
學	學	法	總	法	下
(自一九〇頁)	(自一〇二頁)	(自一〇三頁)	則(自二四頁)	(自三二九頁)	其
法學博士金井延	法學士高野岩三郎	法學士鈴木宗言	法學士杉本貞治郎	法學士加藤正治	金(自一三頁)
					法學士長賀長文
					(至一六頁)
					機
					關
					(完)



討論會豫告

來ル廿三日午前九時ヨリ本校ニ於テ大討論會ヲ開キ討論優等者ニハ梅博士ヨリ賞品トシテ民法要義ヲ贈與セラルヘシ
手形其他商法ノ適用ヲ受クヘキ指圖證券以外ニ於テ白地裏書ハ有効ナリヤ否
備考 證券面ニハ單ニ某又ハ其指圖人ニ辨濟スヘキ旨ヲ言ヘリト假
定ス
發題者 梅 謙次郎君

本校錄事

○校友大會 三月廿六日校友大會ヲ開キ會務ノ報告校友ノ推薦圖書閱覽部設置ニ關スル協議等ヲ爲セリ
○送別會 今回司法事務取調ノ爲メ歐洲へ出張ヲ命セラレタル講師小宮三保松清水一郎齋藤十一郎氏等ノ爲メ同廿六日特ニ送別會ヲ開キ其行ヲ壯ニセリ
○講談會及ヒ討論會 豫報ノ如ク同廿六日講談會及ヒ討論會ヲ開ケリ尙ホ講談會ニ於テハ一木寺尾兩博士ノ外地者間ノ法律行為ニ就テト題スル講演アリタリ

290
1821
2-1-1

華美ヲ競ヒ物品ノ品柄ヲ兎ヤ角言ヒ漫然時勢ノ流行ニ心醉スルニ在リ而シテ人事ノ意ノ如クナラサルヤ右ノ如キ事情往々欲望ノ増加ニ伴フ殊ニ進歩ノ迅速ナル社會ニ於テ最モ甚シシレ實ニ憂慮ス可キノ至リナリト雖モ之ヲ以テ社會進歩ノ當然ノ結果タル欲望ノ増加其モノヲ批難ス可カラズ

第二章 財貨

財貨トハ如何ナルモノナルヤニ關シテハ古來學者間ニ種々ノ議論アルコトナリ
○ロッシエル氏ハ之ニ定義シテ曰ク
財貨トハ世人ノ認メテ以テ人類ノ眞正ナル欲望ヲ直接又ハ間接ニ満足スルニ要用ナリト爲ス所ノモノナリ
ト此定義ノ中ニハ欲望ノ上ニ故ラニ眞正ナルノ形容詞ヲ用弁總テ眞正ナラザル欲望倫理道德ニ背反スル欲望ヲ充スモノヲ全ク財貨ノ範圍外ニ置キ之ト同時ニ經濟學ハ單ニ心理的研究ヲ爲ス而已ナラス兼テ又倫理的研究ヲ爲スモノナルヲ明カニセムコトヲ期セリ
然リト雖モ既ニクニースワグチル等ノ諸氏カ非難シタルカ如クロッシエルノ定

090
1899
2-1-5

討論會豫告

來ル廿三日午前九時ヨリ本校ニ於テ大討論會ヲ開キ討論優等者ニハ梅博士ヨリ賞品トシテ民法要義ヲ贈與セラルヘシ
手形其他商法ノ適用ヲ受クヘキ指圖證券以外ニ於テ白地裏書ハ有効ナリヤ否
備考 證券面ニハ單ニ某又ハ其指圖人ニ辨濟スヘキ旨ヲ言ヘリト假
定ス
發題者 梅 謙次郎君

本校錄事

○校友大會 三月廿六日校友大會ヲ開キ會務ノ報告校友ノ推薦圖書閱覽部設置ニ關スル協議等ヲ爲セリ
○送別會 今回司法事務取調ノ爲メ歐洲へ出張ヲ命ゼラレタル講師小宮三保松清水一郎齋藤十一郎氏等ノ爲メ同廿六日特ニ送別會ヲ開キ其行ヲ壯ニセリ
○講談會及ヒ討論會 豫報ノ如ク同廿六日講談會及ヒ討論會ヲ開ケリ尙ホ講談會ニ於テハ一木寺尾兩博士ノ外地者間ノ法律行為ニ就テト題スル講演アリタリ

華美ヲ競ヒ物品ノ品柄ヲ見ヤ角言ヒ漫然時勢ノ流行ニ心醉スルニ在リ而シテ人事ノ意ノ如クナラサルヤ右ノ如キ事情往々欲望ノ増加ニ伴フ殊ニ進歩ノ迅速ナル社會ニ於テ最モ甚シ是レ實ニ憂慮ス可キノ至リナリト雖モ之ヲ以テ社會進歩ノ當然ノ結果タル欲望ノ増加其モノヲ批難ス可カラズ

第一章 財貨

財貨トハ如何ナルモノナルヤニ關シテハ右來學者間ニ種々ノ議論アルコトナリ「ロッシェル氏ハ之ニ定義シテ曰ク財貨トハ人ノ爲メニ用テラレ得ルモノナリ」
財貨トハ世人ノ認メテ以テ人類ノ眞正ナル欲望ヲ直接又ハ間接ニ満足スルニ要用ナリト爲ス所ノモノナリ
ト此定義ノ中ニハ欲望ノ上ニ故ラニ眞正ナルノ形容詞ヲ用非總テ眞正ナラザル欲望倫理道德ニ背反スル欲望ヲ充スモノヲ全ク財貨ノ範圍外ニ置キ之ト同時ニ經濟學ハ單ニ心理的研究ヲ爲ス而已ナラス兼テ又倫理的研究ヲ爲スモノナルヲ明カニセムコトヲ期セリ云々
然リト雖モ既ニ「クニ」ス「ワ」ダ「ル」等ノ諸氏カ非難セタルカ如ク「ロッシェル」ノ定

義ハ恐ラク其當ヲ得ナル可シ乞フ左ニ其理由ヲ陳ヘム
 第一、氏ハ定義中世人ノ認メテ云々ノ條件ヲ故ラニ附加セリ是レ全ク實事タルヲ免レスシテ總テ定義ハ簡單ニシテ明瞭ナル可キノ旨趣ニ背反セルモノト謂ハサル可カラズ畢竟財貨ハ人ニ認メラレテ始メテ成立シ人ニ對スル關係ニ因リテ存在シ人ヲ離レテハ決シテ單獨ニ存立スルモノニアラス加之ナラス凡テ經濟上ノ事ハ人ト分離シテ談ル可キモノニアラス故ニ世人ノ認メテ云々ノ文字ハ財貨ノ定義中ニ加アルニ及ハサルモノナリト謂ハサル可カラズ抑財貨ハ人ニ認メラレテ始メテ成立スルモノニシテ人ヲ離レテ單獨ニ存立スルモノニアラス試ニ人類ヲ此世ヨリ除キ去リタリトセンカ山川風土金銀穀物等ハ依然トシテ尙ホ存在スト雖モ而モ是レ皆既ニ財貨タラサル可シ
 第二、眞正ナル欲望ヲ満足セシムルモノノミヲ以テ財貨ト爲スハ大ニ誤レリ何トナレハ財貨其モフハ決シテ善惡正邪ニ關係ナシ苟クモ欲望ノ存在スル以上ハ其ノ所謂眞正ナルト否トニ拘ラス其不道德ナルト否ヲサルトヲ問ハス之ヲ満足セシムルニ適當ナルモノハ財貨ト名クルノ外名案ナケレハナリ然ルニ

此ノ如キモノヲ以テ財貨ニアラスト爲サハ抑是レ之ヲ何ト命名シテ可ナルヤ又之ニ關スル學問ハ果シテ如何ナルモノナルヤ此ノ如キモノト雖モ畢竟皆財貨タルニ過キス之ヲ研究スルモノハ結局經濟學ノ外之アラサルカリ況ンヤ欲望ノ眞正ナラサルト否トヲ分別シ不道德ナルト否ヲサルトヲ決スルハ到底絶對的ニ爲シ能ハサルコトナルニ於テオヤ又况ンヤ同一ノ財貨ニテモ場合ニ依リ自然の必要ノ欲望ヲ満足ストモアレハ奢侈的不道德ノ欲望ヲ満足ストモ之アルニ於テヲヤ
 [ラッシュニル]眞正ナル文字ニ非常ニ重キヲ置クト雖モ是レ不必要ナリ抑財貨ハ其レ自身ニ於テ善惡正邪ニ關係アルモノニ非ス苟クモ欲望ノ存スル以上ハ之ヲ満足スルニ適當ナルモノハ皆之ヲ財貨ト命名スルノ外ナシ若シ眞正ナラサル欲望不道德ナル欲望ヲ満足スモノハ財貨ニアラストモ之ヲ何ト命名シテ可ナルヤ又此等ニ關スル研究ハ如何ナル學問ニ據レルヤ惟フニ是レ畢竟經濟學ニ於テスルノ外ナカル可シ況ンヤ或ル欲望カ果シテ眞正ナルヤ否ヤ不道德ナルヤ否ヤヲ定ムルハ絶對的ニ爲シ得サル事ニ屬スルニ於テ

ヲヤ例ヘハ殺人ノ欲望ノ如キモ、スラ絕對的ニ不道德ナリト謂フヲ得サル
可シ何トナレハ歴史以前ノ野蠻時代ニ於ケル殺人ノ所爲ハ決シテ不道德
所爲トハ見做サレサリシコト「スペインサ」ノ社會學等ニモ明カナル所ナレハ
ナリ

加之ナラス經濟學ノ全体ヲシテ單ニ心理的研究ヲ爲ス而已ナラス兼テ又倫理
的研究ヲ爲スモノタルヲ要スルモノト爲ス點ヨリシテ之ヲ觀ルモ眞正ナルノ
形容詞ハ毫モ其必要ヲ見サルナリ社會經濟ノ倫理道德ト抵觸ス可カラサルハ
言フ俟タス是レ財貨モ欲望モ皆人世生活ノ大本ニ從ハサル可カラサルヲ知ラ
ハ自ラ明白ナル可シ故ラニ「眞正ナル」ノ文字ヲ欲望ノ上ニ冠ラシムルノ必要果
シテ何ツクニカアル「ロ氏ノ定義ハ畢竟加フルニ及ハサル文字ヲ加ヘテ徒ラニ
冗長ニ流ルルノ過失ニ陥ルモノト斷定セサルヲ得ス
故ニ予ハ「ロ氏ノ定義ト少シク異ナリタルモノヲ財貨ニ下サント欲ス曰ク
財貨トハ凡テ人類ノ欲望ヲ滿スニ適當ナルモノナリ
予ノ定義ハ極メテ簡單ナリ此定義ニ從フトキハ縱令未タ人類ノ欲望ヲ實

際滿タササルモノモ尙ホ財貨ナリ換言スレハ苟クモ欲望ヲ滿シ得ルモノ
ナル以上ハ實際未タ之ヲ滿サスジテ已ムモノ尙ホ財貨タルヲ失ハサルモノ
ナリト謂ハサル可カラス

ト此ノ定義ニ從ヒ財貨ノ種類ヲ分テハ探ル所ノ標準異ナルニ因リテ様々ノ種
類之アルヲ得ヘク又實際之アルモノトスト雖モ分テ左ノ二トスルヲ以テ最
モ要用ナル分類法ト爲ス曰ク内界ノ財貨曰ク外界ノ財貨是ナリ
第一 内界ノ財貨一ニ之ヲ内部ノ財貨ト曰ヒ又内界ノ貨物或ハ無形ノ財貨ト
モ名ツク

内界ノ財貨トハ人々ノ心身其モノニ附着シ賣買讓與ス可カラサルモノナリ腕
力智識藝能性質等ハ此ノ種類ニ屬ス此等ハ實ニ皆人々ノ心身其モノニ附着
レテ賣買讓與ス可カラサルモノナリト雖モ其形狀ヲ一變シテ所有主ノ勤勞ト
化スル時ハ他人ニ對シテ外界ノ財貨タルヲ得ヘシ
内界ノ財貨又ハ内界ノ貨物ハ人ノ心身ヲ離レテ存在スルモノニアラス從テ
此種ノ財貨ハ之ヲ心身ト分離シ他人ニ讓渡スルヲ得スト雖モ例ヘハ腕力屈

強ニシテ他ニ技藝ナキ者ヲ他人ノ爲ニ車ヲ挽カシカ此場合ニ在リテハ其車夫固有ノ腕力ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得スト雖モ變シテ一ノ勤勞ト化セルモノナレハ此勤勞ハ雇主ノ爲ニ外界ノ財貨タラスンハアラス而モ之ト同時ニ雇人ノ内界ノ財貨タルニハ毫モ妨タル所之アルニアラサルナリ

第二 外界ノ財貨(一)ニ之ヲ外部ノ財貨ト曰ヒ又外部ノ貨物或ハ有形ノ財貨トモ曰フ)

外界ノ財貨トハ吾人人類ヲ圍繞スル外界ノ一部分ニシテ探テ以テ吾人ノ用ニ供シ吾人ノ欲望ヲ滿スニ適當ナルモノナリ故ニ其有形ナルト無形ナルトヲ問ハス宇宙間ニ現存シ荷クモ人間(勿論人格ヲ供ヘタル人間ヲ意味ス)以外ニ在リテ人間ノ用ヲ爲スニ足ルモノハ凡テ外界ノ財貨タラサルハナシ從テ外界ノ財貨ヲ名ケテ有形ノ財貨ト曰フハ誤謬ナリ有形ノ財貨ハ外界ノ財貨ニ似テ而シテ非ナルモノナリト謂ハサル可カラス

外界ノ財貨ハ或ハ之ヲ外部ノ財貨トモ曰ヒ又外部ノ貨物トモ稱シ人類ヲ取圍ム所ノ外界ノ一部分ニシテ吾人ノ欲望ヲ滿スニ足ルモノナリ故ニ其有形

ナルト無形ナルトハ敢テ問フ所ニアラサルナリ

外界ノ財貨ハ之ヲ分ケテ二ト爲ス即チ(甲)自由財貨(乙)經濟上ノ財貨是ナリ

(甲) 自由財貨(一)ニ之ヲ非經濟上ノ財貨ト曰フ自由財貨トハ直譯的ノ語ナリ

自由財貨トハ人類カ勞働シ若シハ他ニ報酬ヲ與フルヲ要セスシテ分量ノ多少如何ニ拘ラス自由ニ使用シ又ハ獲得シ得ルモノヲ曰フ空氣若クハ光線ノ如キ即チ是ナリ

自由財貨トハ分量ノ多少ニ拘ラス之ヲ使用シ又ハ獲得スルヲ得ルモノナリ空氣光線ノ如キハ此種ノ財貨中最モ著明ナルモノナリト雖モ此二者ノ如キモ時トシテ自由財貨タラレルコトアリ例ヘハ潜水器ヲ用非テ沈没セ

ル船舶ヲ搜索スルカ如キ場合ニ在リテハ資本ヲ投シ勢力ヲ加ヘテ此潜水器ニ必要ノ設備ヲナサ、ル可カラスシテ分量ノ如何ニ關ラス自由自在ニ空氣ヲ供給スルヲ得ス其供給量ニ限定セルモノナリ又物理學上ノ實驗ニ供スル光線ノ如キモ一時自由財貨タルノ性質ヲ失フコト之アルモノトス自由財貨ニモ亦二種ノ別アリ即チ(イ)絶對的自由財貨(ロ)相對的自由財貨是ナ

(イ) 絕對的自由財貨トハ極メテ非常ナル一時例外ノ場合ヲ除ク外自由財貨タルノ性質ヲ失ハサルモノナリ空氣光線ノ如キハ元來此種類ニ屬シ唯例外ノ場合ニシテ人爲ヲ以テ故ラニ一時自由財貨タルノ性質ヲ失ハシムルコトアルノミモ自由財貨トシテ其性質ヲ失フモノナラズ

(ロ) 相對的自由財貨トハ場所ノ異ナリ歲月ノ經過スルニ從ヒ自由財貨タルノ性質ヲ失フニ至ルモノヲ曰フ原野ノ眞物ノ如キ海岸ノ砂石ノ如キ其他此種ノ財貨許多アリ土地ノ如キモ元來此種ノ財貨ニ屬スルモノナリト雖モ方今ハ既ニ開明諸國ニ於テ自由財貨タルノ性質ヲ失フニ至レリ往昔未開ノ社會ニ在リテハ土地ハ悉ク自由財貨ニシテ交換價直ヲ有セザリキ故人々自由ニ之ヲ占領ス可ク社會ハ未タ其一私人若クハ共同團體ノ特ニ所有シ得可キモノタルヲ認メザリキ然ルニ時勢ノ變遷ニ從ヒ土地モ亦漸々

時テ私人ノ所有又ハ共同團體ノ所有ニ歸スルニ至レリ於此乎土地ノ所有權與ナルモノ認メラレ是レカ代價モ生キ勞力ヲ爲シ又ハ一定ノ報酬ヲ與フル事ニアラサレハ之ヲ取得スルコト能ハサルニ至リ終ニ今日ノ社會ニ於テハ土地ハ實ニ諸種ノ財貨中最モ高價ナルモノノ一ト爲レリ而シテ事ノ茲ニ人至ル所以ノモノハ敢テ何等ノ人爲的手段方法ニ依レルニアラズ唯土地ハ時勢ノ變遷ニ從ヒ自然ニ自由財貨タルノ區域ヲ脱シタルニ過キス

(ニ) 相對的自由財貨トシテ所トヲ異ニスルニ從ヒ往々經濟上ノ財貨ニ變スル例ハ原野ノ草木ノ如キ又土地ノ如キ是ナリ土地ハ今日人々ノ貴重スル所ノモノニシテ其價額頗ル高シト雖モ古昔野蕃時代ニ在リテハ之ヲ占領セント欲スレハ悉ク自由ナリキ從テ此時代ニ於ケル土地所有權ノ如キモノハ觀念ハ各人ノ豫想モナリシ所ナリ而シテ土地所有權ノ發達ヲ觀ルニ初メハ共同團體ノ所有ニ屬シ其ヨリ進シテ漸次一個人ノ所有ニ移リシモノナリ露西亞ニ於ケル「ミール」日本ニ於ケル沖繩縣ノ土地制度ノ如キ之ヲ證ス古語ニ率土ノ濱王土ニアラサルハナシト

(乙)

曰フカ如キハ以テ其共同所有ノ歴史ヲ推測スルニ足ルモノト爲スヲ得
可シ故ニ曰ク土地ハ相對的自由財貨ナリト

經濟上ノ財貨トハ吾人人類ヲ圍繞スル外界ノ特ニ區畫サレタル一部分ニシ
テ人爲ニ因リテ人ノ欲望ヲ滿スニ適當ナル形體ヲ得又ハ之ニ適當ナル地位
ニ置カレ而シテ後始メテ財貨タルノ性質ヲ得ルカ或ハ斯クシテ財貨タルノ
性質ニ増加サル、所アルモノヲ曰フ人爲ニ因リテ人ノ欲望ヲ滿スニ適當ナ
ルニ至ルモノ、例ヲ舉クレハ即チ銅又ハ鐵ノ如キモノ是ナリ此二者ノ鑛物
ハ原形ノ儘ニテハ人ノ欲望ヲ滿スニ足ラスト雖モ之ヲ精製スルトキハ大ニ
人ノ用ヲ爲スモノナリ是レ銅鑛又ハ鐵鑛カ人爲ニ因リテ經濟上ノ財貨トナ
リ又ハ其財貨タル性質ニ於テ増加サル、所アルニ因ルモノナリ又地位ノ變
更ニ因リテ欲望ヲ滿スニ適當ナルニ至ルモノ、一例ヲ舉クレハ太平洋ノ海
底ニ存在スル珊瑚樹ヲ採取シテ器具裝飾品ヲ製作スルカ如キ即チ是ナリ如
何ナル珊瑚樹ト雖モ海底數千尺ノ深キニ在ル間ハ人ノ欲望ヲ滿スニ足ラス

之ヲ陸上ケシテ茲ニ始メテ人爲的ニ人ノ欲望ヲ滿スニ適當ナル財貨ト爲ス
ヲ得可シ此種ノ財貨ヲ稱シテ經濟上ノ財貨トハ曰フナリ

經濟上ノ財貨トハ吾人々類ヲ取圍ム外界ノ特ニ區畫サレタル一部分ニ
シテ人爲ニ因リテ其財貨カ人々ノ欲望ヲ滿スニ適當ナル形體ヲ得ルカ
又ハ人々ノ欲望ヲ滿スニ適當ナル地位ニ置カレ而シテ後始メテ此性質
ヲ具サルモノトス人爲ニ因リテ形體ノ變セラル、モノ、例ヲ舉クレハ
銅鑛鐵鑛ノ如キ是ナリ銅鑛鐵鑛ハ其初メ山中ニ在ルヤ種々ノ混和物ア
ル人ノ欲望ヲ滿スニ足ラス否ナ一種特別ノ欲望ハ之ヲ滿スコトアル可
シト雖モ鐵ノ鑛タル用ハ之ヲ爲サ、ルナリ之ヲ精製シテ茲ニ始メテ其
用ヲ爲スモノトス又地位ノ變更ニ因リテ價ノ高マルモノ、一例ヲ舉ク
中實レハ珊瑚樹ノ如キ即チ是ナリ太平洋ノ海底ニ在ル珊瑚樹ノ如キハ其儘
ニテハ人ノ欲望ヲ滿スニ足ラスト雖モ之ヲ陸上ケスルトキハ大ニ其用
ヲ生シ其價ヲ増加スルモノナリ其他此類ノ財貨極メテ多シ凡テ吾人カ
日常見ル所ノモノハ多ク此種ノ財貨ナリ

經濟上ノ財貨ハ通常外界ノ區畫サレタル一部分ニシテ吾人人類ノ自由ニ左右シ若クハ利用シ得ルモノトシテサル可カラズ換言スレバ通常一個人ノ所有權ノ範圍内ニ屬ス可キモノトシテサル可カラス此ノ如キモノハ經濟上ノ財貨中重大ナルモノトス爾レシテ尙ホ他ニ之ト少シク其趣ヲ異ニスルモノ多少之アリトス

經濟上ノ財貨ハ通常外界ノ區畫サレタル一部分ニシテ吾人カ自由ニ利用シ若クハ自由ニ左右シ得ル所ノモノナリ是レ其重ナルモノナリ乍併此他ニ尙ホ多少趣ヲ異ニスルモノアリテ是モ亦經濟上ノ財貨ト稱セサルヲ得ス然リト雖モ此等ハ國ニ依リテ經濟上ノ財貨ト稱スルヲ得サルコトアリ其最モ著明ナルモノハ得意ノ如キモノト精神上ノモノトニシテ所有權ノ目的物タルモノナリ專賣特許權ノ如キ即チ是ナリ

經濟上ノ財貨ハ又人爲ニ因リテ始メテ其重ナル性質ヲ具有スルニ至ルモノナルヲ以テ常ニ勢力ニ因リテ始メテ起リ勢力ナクレハ之アルコトナント謂フモ可ナリ但シ同一ノ勢力ハ必スシモ同一ノ財貨又ハ同一ノ利用ヲ生セス

謂フヘシ

第五說ニ於テハ私有財産制ノ基礎ヲ歷史上ノ發達又ハ人性等ノ上ニ求メスシテ經濟上ヨリ直ニ此制度ヲ辯議セテ曰ク私有財産制ハ生産上最良ノ手段ニシテ經濟上最好ノ制度ナリト然リト雖個人カ財産ヲ私有スルハ如何ナル場合ニモ良好ナル生産ニ欠ク可ラサルモノナリト言フヲ得サルナリ何トナレハ吾人ハ實際國ニ屬スル土地地方團體ニ屬スル土地ニ於テモ完全ナル耕作ノ行ハルハカ如ク財産ノ私有ナキモ良好ナル生産ヲ擧ゲ得ヘキコトヲ知レハナリ

斯ク論シ來レハ以上ノ五說皆以テ吾人ノ意ヲ滿スニ足ラス然ルニ近來ニ至リ一般學界ノ傾向ニ從ヒ私有財産制ヲ歷史的社會的ニ觀察シ以テ其發生ヲ説明シ又其基礎ヲ確立セントスルノ說顯ハレタリ予ハ之ヲ第六說トシテ其要領ヲ諸君ニ紹介セシト欲ス

此說ニ依レハ私有財産制ナルモノハ亦他ノ經濟制度ト同シク社會經濟ノ發達ニ伴フテ現出シ來ル歷史的現象ニ過キス既ニ此制度ヲ以テ歷史ノ產物ナリトスレハ勢モ吾人ハ一方ニ於テ此制度ノ起源及發達ヲ探究スヘキト同時ニ他ノ

私有財産ヲ傳フルハ相續法ニ依ル而シテ方今諸國ノ相續法ニ於テ一般ニ認ムル所ニ依レハ先ツ遺言ノ自由ヲ原則トシ財産所有者ハ遺言ニ因リテ隨意ニ其財産ノ處分法ヲ定ムルヲ得ルモノトス然レテ遺言ナキ場合ニハ親族關係ノ遠近ニ因リテ財産繼承ノ順次ヲ定ムルモノナリ此ノ如クニシテ相續法ハ私有財産制ヲ維持スルノ手段トナリ各人ノ財産ハ更ニ他人ノ私有財産ニ移ルヲ常トストモ所有權ノ場合ト同シク無制限ニ此原則ヲ認ムルコトナシ例ヘハ家督相續人ハ如何ナル場合ニモ遺産ノ幾分ヲ受ルヲ得ト規定セルカ如キハ(第七專遺言ノ部ヲ參照)此レ制限ノ一場合ナリトス

第二編 貨財取得論

第一章 貨財取得ノ方法

抑モ吾人カ貨財ヲ得ルノ方法ハ大別シテ二種トナスヲ得ヘシニハ(一)自ラノ勞力ニ依リテ直接ノ勞力ニ依リテ貨財ヲ取得スルノ方法ナリ例ヘハ吾人自ラ河ニ漁シテ魚ヲ捕獲スルカ如キ是ナリ
 第二種ハ自己直接ノ勞力ニ依ラスシテ貨財ヲ得ルノ方法ナリ更ニ之ヲ分テハ其中下ノ數種ヲ包含ス

- (一)家長其他ノ權力者ヨリ分配ヲ受ケテ貨財ヲ取得スル場合
- (二)強制ニヨラス且別ニ報償ヲ供セスシテ貨財ヲ取得スル場合即チ相續遺贈贈與施與又ハ照博ニ依リテ貨財ヲ得ル場合
- (三)強制的ニ且無償ニテ貨財ヲ得ル場合竊取強奪ニ依リテ貨財ヲ得ルハ此場合ニ屬シテ不正不法ノ行爲ニ依ルモノナリ反之公共團體カ強制的ニ人民ヨリ租稅ヲ徵收スルハ此場合ニ屬シテ正當適法ノ行爲タリ
- (四)相互ノ自由意思ヲ以テ契約セル報償ヲ供シ又ハ報償ヲ受ケテ他人ヨリ貨

財ヲ得ル場合例へば交換買賣貨又ハ信用ニ依リテ他人ヨリ貨物ヲ得ルカ如キ是ナリ

以上諸種ノ場合ヲ通觀スルニ第一種ノ方法ハ自己ノ爲ニ新ニ貨財ヲ自ら取得スルノ場合ナリ反之第二種ノ方法中(一)及(三)ノ場合ハ共ニ皆既ニ成立セル貨財カ一方ヨリ他方ニ移轉スルニ過ス(四)ノ場合ニ在テモ亦双方ニ於テ既ニ貨財ノ存在スルカ又ハ少クトモ一方ニ於テハ現ニ存在シ他方ニ於テハ報償トシテ供スル貨財ヲ自ら作り出シ若クハ他ヨリ之ヲ得ルヲ必要トス要之個々ノ人ヨリ觀テ之ヲ言フトキハ貨財ヲ取得スルニハ上記諸種ノ方法アリト雖モ之ヲ社會全體ノ上ヨリ言フトキハ貨財ハ(第一種ノ場合ノ如ク)自己ノ使用ヲ爲ニスルト將タ(第二種四ノ場合ノ如ク)他人ノ使用ノ爲ニスルトヲ問ハス新タニ作り出サルハニ因リテ始メテ取得セラルハモノト謂ハサル可カラス

然リ而シテ新タニ貨財ヲ作り出スコト是レ即チ生産ノ目的トスル所ナリ生産ハ實ニ全社會ノ上ヨリ觀テ貨財ヲ取得スル唯一ノ方法ナリ是ニ於テ乎貨財ノ取得ヲ論スルノ篇ハ主トシテ貨財ノ生産ヲ論スルノ篇トナル彼ノ普通ニ貨財

取得論ト言ハスシテ貨財生産論ト題スル所以ノ理由モ亦蓋シ之ニ由ル

第二章 生産ノ本質及分類

然ラハ即チ生産ノ本質如何請フ以下少シク之ヲ解説セン

生産ハ先ツ一ノ技術上ノ出來事ニ過ス礦物魚鳥果實穀物牛馬等ノ粗生品ヲ獲取スルコト及ヒ粗生品若クハ既製品ニ加工シテ其形體ヲ變更スルコトハ生産ノ一種類ナリ醫師ノ病ヲ治療シ俳優ノ技ヲ演スルカ如キハ生産ノ他ノ種類ナリ之ヲ概括シテ言ヘハ生産トハ人カ有形無形ノ貨財ヲ作り出スコトヲ稱スルナリ

如此ク生産ハ技術上ノ手續ニシテ貨財ノ作出ヲ以テ目的トスルモノナリト雖モ之ト共ニ亦經濟上ノ目的ノ伴隨スルヲ通則トス經濟上ノ目的トハ生産ノタメニ費サレタルモノヨリモ多クヲ得ントスルヲ希望シ云フ蓋シ凡テ貨財ヲ作出スルニハ必スヤ多少費ス所アルヲ要ス天然ノ果實ヲ得ルニスラ吾人ノ勞力ヲ要スルニアラスヤ况ヤ一層複雑ナル貨財ヲ得ントスルニ於テ幾多ノ貨物ト勞力トヲ抛ヲ要スルコト豈怪ムニ足ンヤ然リ而シテ吾人カ生産ヲ營ムニ當

リテ目的トスル所ハ生産ノ結果カ是等ノ費用ヲ償フニ足ルノミナラス其以上ニ成ルヘク多クノ剩餘ヲ生スルニアリ換言スレハ生産ノ爲ニ費サレタルモノヨリモ一層多ク吾人ノ欲望ヲ満足スニ足ルノ貨財ヲ作出スルニアリ學者往々生産ハ價值ノ増加ヲ以テ目的トスト云フ蓋シ生産ノ目的ハ生産物即チ生産ノ結果ノ價值カ生産ノ爲ニ費サレタルモノノ價值ヨリモ大ナルモノアリト云フノ意ニシテ予ノ述ル所ト毫モ意義ヲ異ニセザルナリ

然リ生産ハ價值ノ増加ヲ以テ目的トス然リト雖モ自由交通ノ行ハレ自己ノ使用ニ供スルカ爲ニ生産ヲ事トセスシテ他人ノ用ニ具フルカ爲ニ生産ニ隨フヲ本則トスル方今ノ社會ニ於テハ果シテ此目的ヲ達シ得ルヤ否ヤヲ豫知スル能ハス若シ能ク此目的ヲ達スルヲ得ンカ生産ハ良好ノ結果ヲ奏シタルモノナリ反之若シ此目的ヲ達スルヲ得ス得ル所費ス所ヲ償フニ足ラズンハ生産ハ不結果ニ終レルナリ是ヲ以テ知ルヘシ生産ハ常ニ幾分投機的ノ性質ヲ帶フルモノニシテ多少危険ノ伴隨スルヲ免カレサルコトヲ又是ヲ以テ知ルヘシ生産ヲ定義シテ生産トハ價值ヲ増加スルコトヲ云フトナスノ誤レルコトヲ蓋シ價值

ノ増加ハ生産ノ目的ニ過キス生産其者ハ單ニ一ノ技術上ノ手續ナリ價值ノ増加スルトセザルハ生産終リテ後ニ始メテ現出スルノ事柄ニシテ價值ノ増加伴フモ將タ伴ハサルモ共ニ生産タルニ於テ異ナル所ナケレハナリ

生産ハ之ヲ分類スレハ有形生産及ヒ無形生産ノ二種トナル

第一有形生産

有形生産トハ有形ノ貨財即チ貨物ヲ作出スルコトヲ云フ今此種ノ生産ヲ以テ任トスル事業ヲ舉レハ左ノ如シ

- (一) 原始産業 又之ヲ粗生品生産業ト云ヒ更ニ之ヲ細分スレハ
 - (甲) 採取業即チ有機無機ノ天然物ヲ其儘採取スルモノニシテ漁業狩獵業鐵業等之ニ屬ス
 - (乙) 農業の産業即チ重ニ自然力ヲ利用シテ動植物ヲ生産スルモノニシテ此

- (イ) 農業 此中ニハ穀物ノ生産業ノ外ニ果物野菜花蔴ノ生産業ヲ含ム
- (ロ) 林業 此中ニハ木質其産ノ用途ノ別ニ製材ノ業及ヒ製炭ノ業ヲ含ム

(ハ) 牧養業 此中ニハ牛馬其他ノ獸類ヲ飼養シ其繁殖ヲ目的トスル所ノ

所謂牧畜業ノ外ニ養魚養蜂養蠶等ノ業ヲ包含ス

(二) 工業 即チ原始産業ノ供給スル所ノ粗生品其他ノ貨物ヲ原料トシ之ニ加工シテ其形態ヲ變スルノ業ナリ

第二、無形生産

無形生産トハ無形ノ貨財ヲ作り出スコトヲ云フ學者教員醫師辯護士美術家技術家官吏僕婢等ハ皆此生産ニ從事スルモノナリ尙予ノ見ル所ヲ以テ之ヲ言ヘハ運搬業者倉庫業者ノ如キモ他人ニ對シテ勤勞ヲ生産スルモノニシテ亦此種ノ生産ニ從事スル者ト謂フヘキナリ

第三章 生産ノ要素

生産ノ要素三アリ自然勞力及ヒ資本即チ是レナリ自然ハ吾人ニ種々ノ物體ト自然力ヲ具ヘ吾人ノ勞力ハ之ニ助ケラレ之ヲ利用シテ以テ財貨ヲ生産ス之ニ加フルニ方今ニ於テ貨財ヲ生産スルニハ尙衣服食物器具機械等ノ資本ヲ必要トス以下此三要素ニ付キ順ヲ追フテ説明スル所アラシ

第一節 自然

眼ヲ放テ吾人ヲ包围スル所ノ自然界ノ狀態ヲ觀察スルニ何ソ其國ヲ異ニシ處ヲ別ニスルニ隨テ千變万化相似サルヲ甚シキヤ先ツ氣候ニ於テハ寒溫熱濕潤等ノ差アリ次ニ地理ニ於テハ地ニ山野ノ別アリ山ニ高低ノ差アリ直ニ海ニ濱スルモノアリ深ク山中ニ埋マルモノアリ河川縱橫交通ノ便ニ富ムモノアリ樹木鬱蒼始ト交ヲ四隣ニ絶ツモノアリ又地質ニ於テハ地味豐饒ニシテ耕作ニ適スルモノアリ青草繁茂シテ牧畜ニ適スルモノアリ金銀銅鐵石炭等ノ礦物ニ富ムモノアリ又之ニ反シテ瘠土僻地極メテ自然ノ恩澤ヲ蒙ムヲナルモノアリ然リ而シテ是等境遇ノ中ニ生育セラレタル人類ハ是等境遇ノ中ニ住シテ其利用シ得ヘキ自然物及ヒ自然力ニ依リテ以テ生産ノコトニ從フモノナリ抑モ自然ノ物體ニハ(一)直ニ探テ以テ吾人ノ欲望ヲ滿スニ足ルモノアリ例ヘハ野生ノ果實ノ如キハ是ナリ(二)又人ノ勞力ヲ俟ツテ始メテ人ノ用ニ供スヘキモノアリ例ヘハ礦物天然林土地ノ如キコレナリ

次ニ自然ノ力ニハ(一)無機的ノモノアリ例ヘハ水力風力太陽ノ光線引力彈力瓦

斯蒸氣ノ膨脹力電氣力磁氣力ヲ如キコレナリ(二)又有機的イモノ例ハ土地ノ培養力動物植物ノ繁殖力ノ如キコレナリ

自然中生産上頗ル重要ナルモノハ土地ナリ蓋シ土地ハ吾人ニ生産ヲ營ムノ場所ヲ供ヘ又其中ニ種々ノ自然物及自然力ヲ含蓄スレハナリ然リ而シテ耕作ノ用ニ供セラル、土地ニハ所謂收穫遞減法ナル法則行ハル抑モ一定ノ土地ニ對シテ從來ヨリモ益々多クノ資本ト勞力ヲ費ストキハ其收穫モ亦益々増加スヘシ然リト雖モ吾人ハ無限ニ此結果アルヲ望ム能ハス否一定ノ限度ニ達スル時ハ必スヤ如何ニ資本ト勞力ヲ投スルモ收穫ハ決シテ其割合ニ増加セスシテ却テ減少スルニ至ル一例ヲ取テ之ヲ説明スレハ從來百圓ノ資本及勞力費ヲ投メテ十石ノ米ヲ收メタルノ土地ニ二百圓ノ費用ヲ抛ツトキハ二十五石ノ收穫ヲ得三百圓ノ費用ヲ抛ツトキハ四十石ノ收穫ヲ得タルモ既ニ此點ニ於テ收穫増加ノ極度ニ達シ爲ニ此以後ハ四百圓ヲ投スルモ五十石ヲ得ルニ過ス五百圓ヲ費ヤスモ五十五石ヲ得ルニ過スト云フニ至ル之ヲ稱シテ收穫遞減法ト云フ收穫遞減ノ法則ハ農業カ既ニ粗笨ノ耕作法ヲ離レテ集約的緻密ノ方法ニ依リテ

營マル、所ニ於テ早ク現出ス從テ新國ヨリモ舊國ニ於テ早ク行ハル其結果舊國ハ其所産品ヲ以テ人口ノ増加ニ適應スルコト能ハサルニ至リ止ムナク外國ヨリ食料品ヲ輸入セテ人口ヲ支持スルノ域ニ達シ之由タメニ自國ノ農業ヲシテ外國ノ競争ニ苦シマシムルニ至ルヘキナリ

第二節 勞力

第一款 勞力ノ本質

凡ソ勞力トハ外部ニ存スル一定ノ目的ヲ達セシカ爲ニ吾人ノ身體及精神ノ力ヲ勞スルコトヲ云フサレハ漫ニ街道ヲ散步スルカ如キハ其目的何等外界ニ求ムル所アルニアラス從テ之ヲ勞力ト稱ス可ラス机前ニ端坐シテ讀書スルカ如キモ亦勞力ニアラス何トナレハ其目的單ニ吾人ノ心ヲ富マシムルニアレハナリ戲場ニ入りテ演技ヲ觀ルハ勞力ニアラス何トナレハ單ニ眼ヲ樂マシムルカ爲ニ過キサレハナリ反之農夫ノ田ヲ耕スハ食物ヲ得シカタメナリ職工ノ工場ニ勤クハ生活ノ資料タル賃銀ヲ得シカタメナリ學者ノ講筵ヲ開クハ人ノ智識ヲ開發センカタメナリ俳優ノ戲ヲ演スルハ人ヲ樂マシメンカタメナリ是等

ハ皆外界ノ目的存スルヲ以テ之ヲ勞力ト稱スヘキナリ
 勞力スルコト其者ハ吾人最終ノ目的ニアラス唯外界ノ目的ヲ達セシカ爲ノ手
 段ニ過キス吾人若シ外界ニ何等ノ欲スル所ナクシテハ豈勞力スルヲ要セシヤ又
 假令外界ニ欲スル所アリトスルモ若シ欲シテ直ニ之ヲ得ヘクンハ吾人亦別ニ
 勞力スルヲ要セサルナリ然リト雖モ唯吾人一旦生テ此社會ニ受ク焉ン能ク外
 界ニ求ムル所ナクシテ止マシヤ既ニ外界ニ求ムル所アリ然シテ之ヲ得ルニ勞
 力ヲ要セサルモノ蓋シ稀ナリ如何ニ勞力ヲ厭ヒ安逸ヲ好ムハ人ノ常情ナリト
 ハ言ヘ又如何ニ勞力スルハ即チ吾人ノ身体精神ノ力ヲ費ス所以ニシテ必スヤ
 多少ノ苦痛ノ伴フヲ免レストハ言ヘ吾人勞力スルニアラスンハ小ニシテハ一
 身一家ヲ維持スル能ハス大ニシテハ生産ノ進歩社會ノ發達得テ期ス可ラスト
 スレハ勞力豈厭フ可ンヤ宿ニ厭フヘカラサルノミナラス各人其力ニ應シテ適
 度ニ勞力ニ從事スルコト寧ロ其義務ナリト謂ハサル可ラス

第二款 勞力ノ分類

勞力ハ種々ニ之ヲ分類スルヲ得ヘシト雖モ今經濟學上必要ナル分類ヲ舉ルニ

止ム

第一精神の勞力及肉体的勞力

主トシテ精神ヲ働カシムル勞力ヲ精神的勞力ト云ヒ主トシテ肉體ヲ勞スル
 勞力ヲ肉體的勞力ト云フ但シ此區別タルヤ關係的ノ區別ニ過キスシテ時ニ
 或ハ此何レニ屬セシムヘキヤニ惑フノ勞力ナキニアラサルハ免カレサル所
 トス

第二、修練的勞力及非修練的勞力

修練的勞力トハ豫メ一定ノ修練ヲ經ルニアラサレハ爲ス能ハサル勞力ヲ云
 フ例ヘハ技師ノ勞力ノ如キ是ナリ反之非修練的勞力トハ別ニ規則立チタル
 修練ヲ要セスシテ爲シ得ル勞力ヲ云フ例ヘハ人力車夫ノ勞力ノ如キ是ナリ
 第三生産ヲ經營スルニ當リテ要セラル、勞力ヲ分類スレハ下ノ三種トナル

(一)生産全体ノ計畫ヲ按出確立スルノ勞力 凡ソ生産ヲ營ムニハ先ツ其全体ノ
 計畫ヲ立テサル可ラス而シテ此計畫ヲ立ルニハ學問技術并ニ經濟ニ關スル
 智識ヲ綜合シ之ニ基テ生産經營ノ範圍及方法ヲ確定スルヲ要ス即チ此種ノ

勞力ヲ必要トスル所以ナリカノ家屋ヲ建築スルヲ見ヨ技師先テ全体ノ設計ヲ按シ建設ノ場所ヲ定メ建築ノ材料ヲ選ミ家屋ノ坪數間取り等ヲ工夫スルニアラスヤ

(二)指導監督ノ勞力 即チ生産全体ノ計畫ニ從テ生産ヲ整理シ之ヲ指導シ之ヲ監督スルノ勞力ナリ前例ヲ以テ之ヲ言ハハ家屋建築場ニ臨テ常ニ工事ヲ指導監督スル工事長ノ勞力ハ正ニ此種ニ屬スルモノナリ

(三)生産上必要ナル種々ノ仕事ヲ實行スルノ勞力 總テ事實生産ヲ實行スルノ勞力ヲ包含ス家屋建築ノ場合ニ於テ木ヲ組ミ石ヲ積ミ壁ヲ塗り土ヲ運フカ如キ勞力ハコレニ屬ス

凡テ生産ヲ營ムニハ以上三種ノ勞力ヲ必要トス然シテ其中第一種及第二種ハ重ニ精神的勞力ニシテ第三種ハ主トシテ肉体的勞力ニ屬ス

第三款 勞力ノ生産力

勞力カ生産上効果ヲ奏スルノ力之ヲ勞力ノ生産力ト云フ然シテ勞力ノ生産力ハ下ノ三事情ニ關係ヲ有スルモノナリ

第一各人ノ勞働能力ノ多少ト其使用ノ程度

第二各人ノ勞働心ノ強弱

第三勞力ヲ協同シテ用フノ程度

以下項ヲ追フテ順次之ヲ説明セシム

第一項 勞働能力

勞力ノ生産力ハ先ツ各人ノ具備スル勞働能力ノ多少ニヨリテ大小ヲ差ヲ生ス勞働能力トハ人カ勞働ニ堪ユ得ルノ能力ヲ云フ然レテ人ノ勞働能力ハ更ニ體力ノ強弱智識ノ深淺及ヒ道德ノ高下ニ關係ヲ有ス彼ノ體力強健ニシテ智識アリ且ツ勤勉ナル者ハ之ヲ身體薄弱且ツ懶惰ニシテ才氣ナキ者ニ比スレバ勞働能力遙カニ大ニ隨テ又生産ノ結果大ナルヘキヲ以テ之ヲ知ルヘシ

勞力ノ生産力ヲ大ナラシムル所以ノ道ニアラサルナリ皮相ノ見解ヲ以テ之ヲ考フレハ成ルヘク勞働時間ヲ長クシ然モ又成ルヘク安キ報酬ヲ支拂フコト勞力者ヲ使用スル者ノ常ニ利トスル所ナルカ如シト雖モ其實決シテ然ラズシテ舉ロ反對ニ勞働時間ヲ短カクシ賃錢ヲ高ムルコト却テ勞力ノ生産力ヲ増加シテ雇主ノ利益トナルコトアリトス其然ル所以ノモトハ何ツヤ蓋シ充分ニ働クニハ充分ニ休息スルヲ要ス活潑ナル勞働ハ活潑ナル身心ニ宿ル徒ラニ勞働時間ヲ長クスルハ勞力者ヨリ休息ノ時間ヲ奪フモノニシテ却テ勞働能力ヲ弱ムルノ結果ナシトセス之ト反對ニ勞働時間ヲ短縮スルハ勞力者ニ身心休息ノ餘暇ヲ與フルモノニシテ之カ爲ニ勞力者ハ活潑ニ其事ニ當リ其勞働能力ハ盛ニ活潑シテ從前ヨリモ短キ時間ヲ以テ從前ヨリモ却テ同等以上ノ効果ヲ生シ得可クレハナリ又蓋シ活潑ニ勞力ニ從フニハ充分ニ營養ヲ取テ銳氣ヲ養ハサル可カラズ賃錢ノ低下ハ勞力者ノ生計ノ程度ヲ低メ却テ其勞働能力ヲ削クノ結果ナシトセス之ト反對ニ賃錢ヲ増加ハ勞力者ノ生計ノ程度ヲ高メ勞働能力ヲ増シテ勞力ノ効果ヲ大ナラシムルノ功アル可レハナリ勿論勞働時間減少スルモ勞力

者ハ減少セラレタル時間ヲ利用セス又賃錢増加スルモ勞力者ハ餘分ニ得タル賃錢ヲ浪費スルコトアルヘキヲ以テ勞働時間ノ短縮賃錢ノ増加ハ常ニ勞力ノ生産力ヲ増進スト言フ能ハサルヘシト雖モ然レトモ之ト同時ニ常ニ雇主ノ損失ニ歸ストモ言フ能ハサルハ明カナリ否却テ雇主ノ利益トナリタル幾多ノ例證コレアリトス況ヤ假令勞働時間ノ短縮并ニ賃錢ノ増加其者ハ從來雇主ノ得來レル利益ヲ削減スルノ結果アリトスルモ雇主ハ機械ノ使用ヲ以テ又或ハ賃錢以外ノ費用ノ節約ヲ以テ利益ノ減少ヲ防クノ手段アルニ於テヲヤ

第二項 勞働心

勞働心ノ強弱ハ勞力ノ生産力ノ大小ニ關係ヲ有スル第二ノ要件タリ勞働心トハ吾人ヲ促カシテ勞力ニ從事セシムル所ノ念慮ヲ云フ此念慮ニシテ盛ナリサラシカ人如何ニ勞働能力ヲ具スルコト大ナルモ到底其勞力ノ効果ノ大ナルヲ望ム能ハス反之勞力セント欲スル念慮ニシテ多カラシカ假令勞働能力ハ小ナルモ尙克ク致々トシテ其職ニ勉メ勞力ノ効果大ニ見ルヘキモノアルヤ必セ

今更ニ勞働心ニ影響ヲ及ホス所ノ事情ヲ探究スルニ凡ソ三アリ
 第一ハ即チ吾人ノ有スル欲望ノ多少ト其強弱是レナリ。吾人ノ有スル欲望ニ
 シテ大ナレハ吾人ノ勞働心ハ勢ヒ強盛ナラサルヲ得ス反之欲望小ナレハ勞働
 心ハ亦微々タラサルヲ得ス又若シ吾人ニシテ欲望ヲ滿スル必要ニ迫ラレハコ
 ト甚シケレハ吾人ノ勞働心ハ孜孜トシテ奮ヒ起リ吾人ヲ驅テ其目的ニ達セオ
 レハ止マサルシメントス其勞力ノ生産力ノ大ナルコト豈怪シムニ足ランヤ反
 之欲望ヲ滿スル急ニ迫ラレハコトナケレハ吾人ノ勞働心ハ極メテ薄弱ナルヘ
 ク隨テ生産ノ効果モ亦少ナカルヘシ
 第二ハ即チ勞力ニ依リテ得ル所ノ所得ノ多少ト其確否是ナリ。若シ勞力ノ報
 酬トシテ得ル所ノモノ多ク且確實ナランカ勞働心ハ必スヤ旺盛ナリ反之得ル
 所ノモノハ少ナクヤテ加フルニ不確實ナランカ勞働心ハ勢ヒ薄弱ナリ若シ夫
 レ得ル所ハ多キモ危險ノ之ニ伴フモノナランカ勞働心ハ大ニ之カ爲ニ影響ヲ
 受ケサルヲ得ス普通人ハ寧ロ却テ所得少ナキモ之ヲ得ルニ確實ナルモノヲ選
 ハン既ニ所得ノ多少ト其確否トハ勞働心ニ影響ヲ及ホストセハ亦其間接ニ勞

力ノ生産力ニ關係ヲ有スルヲ知ルヘシ彼ノ奴隸ノ勞力ヲ見ヨ如何ニ叱咤ヲ加
 ヘ如何ニ嚴罰ヲ以テ之ニ臨ムモ其勞力ノ生産力ノ極メテ薄弱ナル所以ノモノ
 ハ畢竟別ニ勞力ノ報酬トシテ受ル所ナク多ク生産スルモノ少ナク生産スルモノ自
 家ノ利益トナラサルカ爲ニアラスヤ又彼ノ一定ノ時間ニ依リテ報酬ヲ受ル所
 ノ勞力ヲ見ヨ之ヲ出來高ニ依リテ實錢ヲ受ルノ勞力者又ハ雇主ヨリ純益ノ配
 當ヲ受ル勞力者ノ勞力ニ比シテ稍モスレハ其効果ノ劣ルモノアルハ畢竟勞力
 ノ結果ニ利害ノ關係ヲ感スルコトナク勞働心ノ鼓舞セラル、コト亦隨テ薄キ
 カ爲ニアラスヤ第三ハ即チ勞力ヲ尊ヒ勞力者ヲ重ニスル氣風ノ存否是ナリ此
 コト輕キニ似テ決シテ輕カラス蓋シ勞力ハ神聖ナリトハ萬世ニ通スルノ格言
 ニシテ古來勞力ヲ尊ヒミ勞力者ヲ輕シタルノ國ニ經濟ノ進歩ヲ見タルコト
 ナケレハナリ

第三項 勞力ノ協同

勞力ノ協同ハ勞力ノ生産力ヲ大ナラシムルノ一大方法ナリ然シテ勞力ノ協同
 ニハ單純ナルモノアリ又複雜ナルモノアリ

(第一)單純勞力協同
 單純勞力協同ハ普通ニ勞力協同ト云フ所ハモ、ニシテ多數ノ人々聯合シテ同一ノ仕事ヲ同時ニ又ハ連續シテナスコトヲ云フ例ヘハ三人カヲ合セテ一石ヲ動カシ四人順次ニ稻ヲ打カ如キ是ナリ此種ノ勞力協同ハ各人別々ニテハナシ得サル事ヲ遂行シ得ルノ利益アルヲミナラス又同數ノ勞力者カ別々ニ孤立シテ爲スヨリモ大ナル効果ヲ生スルノ利益アリ而シテ此方法ハ重ニ農業並ニ土木建築ノ事業ニ適用セラル

(第二)複雜勞力協同
 複雜勞力協同ハ又之ヲ分業ト稱シ種々ノ貨財ヲ作り出ス上ニ於テ個人又ハ一群ノ人々カ各自其職トスル所ヲ異ニシテ之ニ從事スルヲ云フ一方ニ勞力ノ協同ト云ヒ然モ他方ニ之ヲ分業ト云フハ怪シム可キカ如シト雖モ實ハ然ラス何トナレハ各自其職ニ從事スル人ヨリ見レハ之ヲ分業ト稱スヘキモ社會全體又ハ一團體ノ方面ヨリ見レハ之ヲ複雜勞力協同ト稱ス可レハナリ

(一)職業的分業即チ人々職業ニ因リテ相分レ然モ互ニ相助ケテ共同生活ヲ營ムヲ云フナリ社會未タ幼稚ナル時ニ當リテハ此種ノ分業廣ク行ハレス各人ハ自ラ諸種ノ勞力ニ從事シタリシカ漸ク世ノ進化ト共ニ人々其從事スル所ヲ異ニスルニ至リ遂ニ方今ノ如キ夥多ナル職業ノ成立ヲ見ルニ及ヘリ但シ方今ニ於テモ村落ハ之ヲ都會ニ比シ小都會ハ之ヲ大都會ニ比シ此種ノ分業ヲ行ハルコト適カニ少ナシ然シテ又方今ニ於テハ此種ノ分業ハ一國ノ區域ヲ越テ國際間ニモ盛シニ行ハルニ至レリカソ諸國各自ニ特種ノ事業ニ從事シ其產物ヲ交換スルモノ即チ是ナリ

(二)技術的分業即チ一種ノ生産ヲ營ムニ當リ之ニ必要ナル仕事ニ成ルヘク多クノ分科ヲ設ケ人々ヲシテ之ヲ分擔セシムルコトヲ云ヒ普通ニ所謂分業トハ此技術的分業ヲ指スモノナリ此種又分業ヲ最も多ク利用スルモノヲ工業殊ニ工場ニ於テ營マル工業トナス吾人ニタヒ工場ヲ訪ハ直ニ了解スルヲ得ン而シテ時計製造場並ニ針留製造場ニ於テ特ニ其甚シキヲ見ル英國ノ如キニ在テハ時計ノ製造業ニ百〇二ノ分科ヲ設ケタルモノアリト云フ

分業殊ニ第二種ノ技術的分業ニ伴フノ利益ヲ舉レハ凡ソ左ノ如シ
 第一勞力者ノ熟練ヲ増スヨト絶エヌ同一ノ勞力ニ從事スルトキハ熟練ヲ増
 スニ至ルコト明白ノ理ナリ既ニ熟練ヲ加フルトキハ其自然ノ結果トシテ生
 産セラル、貨財ノ分量増加シ又ハ其品質善良ニ趣クヘキナリ、工業界ニ
 第二迅速ニ職業ヲ修メ得ルコト、
 第三勞力ノ利用セラル、
 第四資本ノ利用セラル、
 第五學問技術ヲ進歩セシメ發明發見ヲ促カスコト、
 第六職業ヲ修メ得ルヲ以テ原料ノ浪費器具ノ減却少ナク又熟練ヲ増スコト速
 カナルヲ以テ器具モ長ク使用ニ堪ニ加フルニ一人ニシテ數多ノ仕事ヲ爲ス
 事ト異ナリテ器具ノ使用セラレスシテ空シク抛却セラルコトナキヲ以
 テ器具モ充分ニ利用セラルルカ如キヲ云フモノナリ、
 第五學問技術ヲ進歩セシメ發明發見ヲ促カスコト、コレ蓋シハ専心一業ニ

轉匿シ又ハ藏匿スルノ避レナシトセス故ニ法律ハ封印ハ破産宣告ト同時ニ之
 ヲ爲スヘキコトヲ命セリ又會社カ破産シタルトキハ無限責任社員ハ會社ノ債
 務ニ對シ自己ノ財産ヲ以テ責任ヲ負フモノナレハ無限責任ヲ負ヒタル總社員
 ノ財産ニ對シ封印ヲ付スルモノトス第千二條ニ曰ク、
 裁判所ハ破産宣告ト同時ニ債務者ノ動産ノ封印ヲ命ス會社ニ在リテハ連帶
 責任ヲ負ヒタル總社員ノ財産ニ對シテ右ノ處分ヲ行フ、
 茲ニ注意スヘキハ會社ノ場合ニハ其連帶無限ノ責任ヲ負ヒル總社員ハ破産
 者ニアラサルモ其所有ニ係ル總社ノ財産ニ對シテ同一ノ處分ヲ施シ得ヘキコ
 ト是ナリ之レ其社員ハ自ら破産シタルモノニアラサレハ會社ノ破産後ト雖モ
 自ラ其所有ニ屬スル財産ヲ處分シ得ヘキモ會社ノ義務ヲ負擔スヘキモノハ結
 局其人ナルヲ以テ之ニ對シテ相當ノ處置ヲ爲サ、
 脱漏スルノ弊ヲ免カレス又會社ノ社員ニアラサルモ社員ト同一ノ責任ヲ負フ
 モノハ其責ヲ免カル能ハス之レ社員ト同一ノ責任ヲ負フモノナレハナリ、
 抑モ封印ハ財産ノ轉匿又ハ藏匿ヲ防ク爲メ必要ナレハ其必要ナキコトハ之ヲ

爲スヲ要セス即チ管財人カ直ニ之ヲ占有シ且ツ財産目錄ニ登記シタルトキハ最早隠匿ノ憂ナキヲ以テ封印ヲ爲スヲ要セス又一旦封印ヲ爲シタルモ管財人ニ於テ右ノ手續ヲ爲シタルトキハ之ヲ解クヲ得ヘレ

(一) 財團ニ加フルコトヲ得ザル財産即チ彼ノ優先權アル財産又ハ差押フヘカシラサル財産即チ別除權アルモノ是ナリ

(二) 財團ノ爲ニスル即時ノ換價即チ腐敗シ易キ物品ノ如シ又ハ繼續利用ヲ要スル物件例ヘハ蠶兒ノ養成中ニアルモノ、如シ

(三) 商業帳簿ハ其破産カ有罪ナルヤ否ヤ又ハ幾何ノ貸借アルヤ等ヲ調査スルニ必要ナレハ直ニ之ヲ管財人ニ交附スヘキモノタルヲ以テ封印スルコトヲ得ス而シテ破産主任官ハ其帳簿ニ疑ハシキ點ナキヤ否ヤ即チ其帳簿ノ現狀ヲ證明シ置クヘキモノトス

(四) 高價ナル物件ハ封印スルモ十分ノ保全トナラス破産者ハ封印破毀ノ罪ヲ犯シ之ヲ藏匿スルナキヲ保セス故ニ高價ナル物品ハ之ヲ管財人ニ交附シ

又ハ裁判所ニ一時引取ルコトヲ得ヘキナリ

右(三)ノ場合ハ何レニアリテモ封印ヲ爲シ能ハサルモノナレドモ(一)(二)(四)ハ其場合ノ狀況ニ依リ封印ヲ爲スト否トノ自由アルモノナリ殊ニ(二)ノ如キ封印セザル物品ハ必ス財産目錄ニ記載シ管財人ノ占有スルコトヲ要ス

第二 拂渡差押命令

破産財團ニ屬スルモノニシテ破産者ノ手中ニ存在セス他人ノ手中ニアルモノ又ハ破産者カ他人ニ對シテ債權ヲ有レ居ルトキハ封印ヲ以テ之ヲ保存スルコトヲ得ス故ニ此場合ニハ拂渡差押ノ命令ヲ以テ之ヲ管財人ノミニ拂渡スヘキモノナリト催告セラレタルモノナリトス(第一〇〇六條第一項)故ニ破産者ノ債權者ハ之ヲ管財人ニ對シテ履行シ又破産者ノ物件ヲ占有スルモノハ之ヲ管財人ニ向テ返還セサルヘカラス然ラサレハ金錢ノ支拂物件ノ返還ハ無効ニ歸シ再ヒ管財人ニ對シテ支拂ハサルヘカラス(第九八〇條第四項第九八五條)

會社ノ社員ニ對シテハ財産ヲ封印スルノ規定アルモ拂渡差押ノ規定ナキヲ以テ之ヲ適用スルヲ得ス然ルニ無限責任社員ハ自己ノ財産ノ全部ヲ舉クテ會社

債務ヲ辨濟セサルヘカラスルモノナレハ財産ヲ封印スル必要アル以上ハ拂渡シ差押命令ノ必要ナカルヘカラス而シテ其規定ナキハ法律ノ一欠點ト謂フヘシ

第三 破産者ノ監守
破産者ノ監守ヲ必要トスルハ之レ又財産ノ隠匿破産者ノ逃走ヲ防止センカ爲メナリ若シ夫レ破産者ニシテ逃走スルコトアリトセンカ其後ノ破産手續ハ之ヲ續行スルコト能ハサルヲ以テ遂ニ破産ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ルヘシ何トナレハ破産者カ有スル財産ノ模様ニ依リ他一切ノ取引等ヲ詳知スルハ破産者ニ若クモノナン故ニ破産者ヲシテ此等ノ事ヲ辨明セシムル爲メ破産者其地ニ居ルコトハ必要欠クヘカラスナルナリ又有罪破産ノ形迹アルトキハ破産者ヲ捕フルノ必要アレハナリ第一〇〇三條第二項然レトモ破産者ヲ監守スルコトハ即チ其身體ヲ拘束スルモノニシテ利害ノ關スル處名譽ノ係ル處少ナカラサルヲ以テ之ヲ爲スニハ裁判所ニ於テ破産者カ逃亡シ若クハ財産ヲ隠匿スルノ虞アリト認メタル場合ニ限ルモノトス但シ破産者ヲ引致スルコトハ裁

判所ノ職權内ノ事ニシテ裁判所カ必要ト認ムルトキハ何時ト雖モ之ヲ爲シ得ヘシ第十二條ニ曰ク
破産者カ逃走シ若クハ其財産ヲ隠匿スルノ虞アリト認ムルトキハ裁判所ハ其監守ヲ命スルコトヲ得
會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ニ對シ右ノ處分ヲ行フ
破産者ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非ラザレハ其住地ヲ離ルヘコトヲ得ス又
裁判所ハ何時ニテモ債務者ノ引致ヲ命スルコトヲ得トアリ
ニ規定スル手續ニ由ラサル可カラス第四十五條ニ曰ク
商法第十三條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ監守セントスルトキハ其命令書ヲ檢事ニ送致シ檢事ハ債務者ノ住所ヲ監督スル警察署ニ命シ其處分ヲ爲サシム
又第四十八條ニ曰ク
監守スルトキハ警察官吏ヲシテ債務者ノ住所ニ就キ其逃走若クハ財團ノ隠

匿ヲ豫防シ且破産主任官ノ許可ヲ得タルトキノ外其債務者ト外人ト面接者
トハ通知スルヲ禁セシム

トアリ而シテ破産者ヲ引致スルノ手續ニ付テハ同第四十九條ニ規定セリ曰ク
商法第三條第二項ニヨリ債務者ヲ引致スルトキハ特ニ作リタル引致狀ヲ
以テ之ヲ執行ス但シ其執行ハ刑事訴訟法ニ定メタル拘引狀執行ノ手續ニ準
トアルナリ

抑モ茲ニ所謂監守ハ破産處分ノ手續上實ニ已ムヲ得スシテ設ケタル方法ニ過キ
ナレハ之ヲ以テ刑事上ノ拘留又ハ引致ト同一視スヘカラサルハ勿論ナリ即チ茲
ニ所謂監守ハ刑罰ニアラサルヲ以テ一定ノ期限アルヘキ理ナク從テ監守ヲ受
ケタルモノト雖モ其處分ノ不必要トナリタルトキハ何時ニテモ解放セサルヘ
カラス又假令解放スルモ何時呼出ノ必要アルヤ知ル可カラサルヲ以テ解放ス
ル場合ニハ擔保ヲ附スルノ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得ルナリ擔保物
ヲ沒收シタルトキハ其擔保ノ金額ハ之ヲ財團ニ組入ルヘキモノナリ何トナレ

ハ之レ財團ノ爲メニ供シタルモノナレハナリ(第一〇〇四條第二項)

第四 債務者ニ宛テタル書類其他ノ送達物

此等ノ送達物ヲ破産者ニ交附セスシテ管財人ニ交附セシムルノ理由ハ破産者
ハ他人ト通謀シテ財産ノ隱匿若クハ逃走ヲ企ツルコトヲ防カンカ爲メナリ故
ニ裁判所ハ郵便電信局其他運送取扱所ニ通知シテ之ヲ管財人ニ交附セシムル
ノ手續ヲ爲シ管財人ハ其受取リタル送達物ヲ開封スルノ權利ヲ有ス從テ此場
合ニハ信書ノ秘密ハ之ヲ保ツヲ得サルコトナレトモ破産財團ヲ保全スルニ必
要已ムヲ得タルコトナリトス然レトモ既ニ管財人カ受取リタル信書其他送達
物ヲ審査シテ財團ニ關係ナキモノト認メタル場合ハ之ヲ破産者ニ引渡サハル
ヘカラス之レ又説明ヲ要セサルナリ第六條第三項ニ曰ク
債務者ニ宛テタル電信書狀其他ノ送達物ハ之ヲ管財人ニ交附スヘシ其管財
人ハ開封ノ權ヲ有ス然レトモ其事柄カ財團ニ關係ナキトキハ管財人ヨリ債
務者ニ引渡スコトヲ要ストアリ又同條第四項ニ曰ク裁判所カ此カ爲メ郵便
局電信局其他ノ運送取扱所ニ必要ナル命令ヲ發スヘシ

トアルナリ
 本章ヲ終ルニ臨ミ一言スヘキコトアリ即チ破産者ハ其總財産ヲ凡テ財團ニ組
 入レ之ヲ保全シテ債權者ノ爲メ配當スヘキモノナラニモ拘ハラズ破産主任官
 ニ於テ必要ト認ムルトキハ破産者及ヒ其家族ニ向テ財團ヨリ生計ヲ維持スヘ
 キ扶助料ヲ給與シ得ヘキコト是レナリ(第一〇〇七條此規定ハ保全處分ニハ直
 接ノ關係ヲ有スルモノニアラスト雖モ之ヲ設ケタル精神ハ第一千一條ト同一様
 ニシテ此規定タル大ニシテハ社會ノ爲メ小ニシテハ破産者保護ノ爲メニ設ケ
 タルモノナリ蓋シ此規定ナクハ破産者ハ其後ノ活路ヲ失ヒ終ニ路頭ニ彷徨
 スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘケレハナリ

第六章 財團ノ管理及ヒ換價
 破産處分ニ於テ財産ヲ占有シ及ヒ之ヲ賣却シテ金錢ニ換ユル等ノ處置即チ財
 團ヲ管理シ及ヒ換價スルカ如キ手續ハ前ニ述ヘタル財團ノ保全處分ト同シク
 破産法上尤モ必要ナル事柄ニシテ此等ノ處置ヲ爲スニ付テハ管財人ナルモノ
 カ其任ニ當ルモノナリ故ニ管財人ハ破産宣告アルヤ直ニ財團ヲ占有シ且其管

理及ヒ換價ニ着手セザルヘカラス而シテ毀損シタルモノハ之ヲ脩復シ賣却ス
 ヘキ者ハ之ヲ賣却スル等一切ノ處分ヲ爲サ、ルヘカラス(第一〇一二條元ヨリ
 此等ノ處分ハ迅速ヲ要スルモノナルカ故ニ法文ニハ殊ニ即時ナル文字ヲ加ヘ
 タリ去レハ若シ管財人カ猶豫シタルカ爲メ損害ヲ加ヘタルトキハ管財人ハ自
 ラ其責ニ當ラザルヘカラス管財人カ事務ヲ取ルニ付キ破産者ノ助力ヲ要スル
 場合アレハ破産者ヲシテ之ヲ補助セシメ其財産ノ情況或ハ取引先ノ如何ヲ陳
 述セシムルコトヲ得ヘキ而シテ破産者ヲシテ補助セシムル場合ニ於テハ破産
 主任官ハ之ニ相當ノ報酬ヲ與フルコトヲ得ヘシ此報酬ハ破産者ヲシテ熱心ニ
 管財人ノ職務ヲ補助セシメンカ爲メニ與フルモノナレトモ之ヲ與フルト否ト
 ハ素ヨリ破産主任官ノ職權ニ屬スルヲ以テ破産者ニ於テ之ヲ請求スルノ權カ
 キモノトス同上第二項

破産管財人ハ職務上財團ノ管理及ヒ換價ヲ爲スニ付テハ左ノ事ヲ爲サ、ルヘ
 カラス

第一ハ財産目録貸借對照表及ヒ報告書

管財人ハ財産目録貸借對照表及ヒ報告書ヲ調製スルノ義務アリ財産目録調製
 ノコトハ第十四條ニ規定スル處ニシテ其要ハ財産ノ多寡ヲ知り以テ破産手
 續ヲ續行シ若クハ中止スルノ便ニ供スルニアリ故ニ之ヲ調製スルコトノ必要
 ハ辨ヲ埃メタル處ニシテ法律ハ詐欺又ハ不正ノ所爲ヲ差止メンカ爲ニ其調製
 ノ手續ヲ嚴重ニセリ即裁判所書記其他裁判所ノ職員又ハ警察官吏ノ立會ヲ以
 テ之ヲ調製スルコトヲ要セリ故ニ若シ此等ノ立會ナカラシカ裁判所ハ之ヲ有
 効ノモノト認メサルナリ是ヲ以テ其立會ハ之ヲ財産目録調製ノ必要條件トス
 又必要アルトキハ破産者ヲモ立會ハスルコトヲ得ヘキモ之レ單ニ必要條件トス
 ル場合ニ立會ハシムルコトニシテ敢テ必要條件トナルモノニアラス蓋シ破産
 者ハ財産ノ種類有無等ヲ尤モ精細ニ知悉スルモノナレハ其意見ヲ聞クコト必
 要ナルコトアルヘケレハナリ(第一〇一四條第一項)
 檢事ハ犯罪搜索ニ便ヲ得ンカ爲メニ其見込ニ依リ職權ヲ以テ財産目録調製ニ
 立會フヲ得ヘシ(同上第四項)而シテ財産目録ハ要スルニ財産ノ現在高ヲ一目瞭
 然タラシムルニアレハ財團ニ組入ル可カラサルモノト雖モ其價格ヲ明示シテ

目録ニ記入スルコトヲ要セリ若シ管財人ニ於テ價格ヲ辨スルコト能ハサルト
 キハ鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシメサルヘカラス同上第二項又其目録及ヒ之ニ
 關スル調書ハ債權者其他破産ニ關係アルモノヲシテ財産ノ實況如何ニ從ヒ覺
 悟スル處アラシメンカ爲メニ之カ謄本ヲ作り公衆ノ展開ニ供セシメサルヘカ
 ラス(同上第三項)
 又貸借對照表ノ要ハ裁判所ハ之ニヨリ破産處分ヲ監督シ債權者ハ之ニヨリ其
 自己ニ及ホス利害如何ヲ見テ以テ破産處分ニ加入スヘキヤ否ヤヲ覺悟スヘキ
 ニアリ又報告書ハ破産ノ原因及ヒ手續ヲ記載スヘキモノニシテ其不幸ノ爲メ
 破産シタルモノナルカ將タ罪過ヲ以テ論スヘキ行爲アルヤ否ヤ及ヒ破産處分
 ヲ中止スヘキヤ否ヤヲ知ルニ於テ大ニ便利ナルモノナリ第十六條ニ曰ク
 管財人ハ破産主任官ノ定メタル三十日以内ノ期間ニ破産者ヨリ差出シタル
 届出ヲ及ヒ貸借對照表ヲ調製シ且其報告書ニ貸借對照表ヲ添ヘテ破産主任
 官ニ差出スヘシ報告書及ヒ貸借對照表ノ認證アル謄本ハ公衆ノ展開ニ供ス
 ル爲メ裁判所ニ之ヲ供フ

報告書及ヒ管借對照表ハ之ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス

第二 財産ノ賣却

管財人ハ法律ニ隨テ財産ヲ賣却スル義務アリ此賣却タルヤ債權者ニ財團ヲ配當スルニ付キ必要ナルコトアリ而シテ之ヲ賣却スル方法ハ公賣ニ付スルト一
個人間ノ契約ニ任スルトノ二者アリ然レトモ此二方法ハ互ニ利害ノ存スルモノ
ニシテ一個人間ノ契約ニ依ルトキハ或ハ高價ニ賣却スルヲ得ラルヘキ物件
モ之ヲ公賣ニ付スルトキハ却テ其價格ヲ減スルコトアリ故ニ公賣必スシモ利
アリト云フヘカラス相對ノ賣買亦必スレモ損アリト云フヘカラス而シテ第
十八條ハ賣却ノ方法ヲ左ノ如ク規定セリ

不動産ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケテ之ヲ競賣スルコトヲ要ス
動産ハ競賣スルヲ通例トスト雖モ破産主任官ノ認可ヲ受ケタルトキハ相對
ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得
競賣ノ手續ハ凡テ民事訴訟法ノ規定ニヨル

トアリ蓋シ不動産ハ人ニ依リ價格ノ高低ノ差ナキモ動産ハ人ノ嗜好ニ由リ價
格ノ變動アルモノニシテ甲ハ百圓ノ代價ヲ以テ尙ホ高シトセサルモ乙ハ十圓
ヲ拂フコトヲ惜ムカカキゴトナシトセス故ニ此ノ如ク兩者ノ差異ヲ設ケタル
所以ナリ

第三 債權ノ取立

管財人ハ破産者ノ債權ヲ取立テ其他ノ權利ヲ保全スルノ義務アリ第千十九條
第一項ニ曰ク

管財人ハ財團ニ屬スル破産者ノ貸方ヲ取立テ及ヒ破産者ノ權利ヲ債權者其
他ノ人ニ對シテ主張シ且ツ保全スルコトヲ要ス

トアリ此規定ニ依レハ管財人ハ破産者ノ貸方アレハ之ヲ取立テ其他ノ主張ス
ヘキ權利アラハ之ヲ主張シテ其保全ノ處分ヲ爲サ、ルヘカラス例ヘハ賣掛金
アルトキハ之ヲ取立テ請求シ得ヘキ金額アレハ之ヲ請求シ又延滞ノ債務ニ對
シテハ訴訟ヲ提起シ若クハ強制執行ノ申請ヲ爲シ其他債權ノ時効ニ係ル妨ヲ
爲シ手形支拂ノ停止ヲ爲シ又手形ノ引渡ヲ爲シ或ハ拒證書ヲ作製スル等是レ

ナリ右ノ如ク管財人ハ財産ノ取立及ヒ權利ノ保全ヲ爲スコトハ之ヲ随意ニ爲シ得ヘキモ重大ノ結果ヲ生シ丁重ニ處理セサルヘカラサルコトニ關シテハ法律ハ破産者ノ意見ヲ聞キ且破産主任官ノ認可ヲ受ケサルヘカラサルコトトセリ之レ第千九條第二項ノ規定スル處ナリトス其破産主任官ノ認可ヲ受クヘキ事柄凡ソ九アリ

- (一) 訴訟ヲ爲スコト
- (二) 和解契約又ハ仲裁契約ヲ取結フコト
- (三) 質物ヲ受戻スコト
- (四) 債權ヲ轉附スルコト
- (五) 相續又ハ遺贈ヲ拒絶スルコト
- (六) 消費借ヲ爲スコト
- (七) 不動産ヲ買入ル、コト
- (八) 權利ヲ拋棄スルコト
- (九) 總テ財團ニ新ナル義務ヲ負ハシムルコト

此等ノ場合ニハ必ス破産主任官ノ認可ハ之ヲ受ケサルヘカラスト雖モ破産者ノ意見ハ之ヲ採用スルト否トハ全ク管財人ノ自由ナリ

第四 破産財團ニ對スル訴訟

管財人ハ破産財團ニ對シ訴ノ提起アルトキハ之ニ對シ答辯ヲ爲サルヘカラスト而シテ其裁判ヲ管轄スヘキ裁判所ハ破産裁判所ナリ第千十五條ニ曰ク破産者ニ屬セサル財産ヲ財團ニ取戻スコトニ係ル訴訟ハ破産裁判所之ヲ裁判シ不動産ニ付テハ其所在地ヲ管轄スル裁判所之ヲ裁判ス
トアリ本條ニ所謂破産者ニ屬セサル財産トハ例ヘハ破産者カ他人ヨリ預リ居リシ物カ又ハ借受ケタル物ノ如キモノニシテ之ヲ眞ノ所有者ヨリ取戻ヲ請求スル場合ナリ

第五 金錢ノ供託

管財人ハ買拂又ハ受納ニ由リテ得タル金錢ハ破産主任官ノ定メタル費用及ヒ裁判費用ヲ引去リ遅延ナク直ニ供託所ニ寄託シ破産主任官ノ支拂命令ニ依ルニアラサレハ支出スルコトヲ得ス(第一〇二〇條故ニ預金ヲ遅延シタル場合ニ

於テハ管財人ニ於テ其運延シタル爲メ生シタル損害ハ之ヲ支拂ハサルヘカラス
 第六節 營業ノ續行
 凡シ破産宣告ヲ受ケタルトキハ破産者ハ直ニ其營業ヲ停止スルヲ以テ原則ト
 スト雖モ或ル場合ニ於テハ營業ヲ停止セザルヲ以テ大ニ利益ヲ與フルコトア
 リ此場合ニハ管財人ニ於テ營業ヲ續行セサルヘカラス例ヘハ製造中ノ物品ヲ
 仕上ケ或ハ果實ノ成熟スル迄培養シ或ハ蠶ノ繭トナル迄之ヲ養ハシムルノ必
 要アル場合ノ如キ是ナリ之レ管財人カ其財産ヲ保全スル義務アルヨリ生スル
 結果ニシテ管財人ノ見込ニヨリ爲スコトナリ其他營業ヲ續行シ得ヘキ場合ハ
 第一千七百條ニ規定セリ即チ貸方ノ超過スル場合又ハ協讚契約ノ豫期セラレ、
 間ハ其營業ヲ續行スルコトヲ得此ノ場合ニハ協讚契約ノ爲メ其營業ハ全ク破
 産者ニ返還セラレヘキモノナレハ營業以外ニ於テ物品ヲ賣買スルニハ豫メ破
 産者ノ意見ヲ問ハサルヘカラス然レトモ其果シテ協讚契約ノ成立スルヤ否ヤ
 未タ確定シタルニテアラザルヲ以テ破産者ノ意見ニハ敢テ隨フヲ要セザルナリ
 第一千七百條ニ曰クハ新進主計官ハ破産者ノ意見ニハ敢テ隨フヲ要セザルナリ

貸方ノ借方ニ超ユルコト判然ナルトキ又協讚契約ノ豫期セラレ、間ハ裁判
 所ハ破産主任官ノ申立ニヨリ且管財人ノ意見ヲ問キタル後管財人ヲシテ破
 産者營業ヲ續行セシムル決定ヲ爲スコトヲ得
 管財人營業ヲ續行スル場合ニアリテ財團ニ屬スルモノヲ通常ノ營業外ニテ
 賣却セントスルニハ破産主任官ノ認可ヲ受ケ且ツ豫メ破産者ノ意見ヲ問ク
 コトヲ要ス
 トアルナリ

第七章 債權者

第一節 債權届出及ヒ確定

破産法ノ目的トスル處ハ各債權者ヲ保護シ兼テ債務者ヲ保護スルニアルコ
 ト前ニ述ヘタルカ如シ蓋シ債權ノ眞偽ヲ調ヘ債權ノ種類ヲ調査スルハ其目的
 ヲ達スヘキ一方法ナリトス何トナレハ債權者ニアラサルモノカ財團ノ分配ニ
 預リ債權者債務者ヲ害シ又債權者中ニ於ケルモ優先權ヲ有スルモノハ之ヲ普
 通債權ヲ有スルモノト混同セハ優先權ヲ有スルモノハ之ヲ爲ニ大ナル不利益

ヲ蒙ムルコトアレハナリ而シテ之ヲ爲スニ付テハ債權者中ニ於テモ種々利害ヲ異ニスルヲ以テ互ニ紛争ノ生スルコトナキヲ保セス故ニ此紛争ニ對シテハ裁判ヲ下サ、ルヘカラス各債權者ニシテ其權利ノ救済ヲ得ント欲スルモノハ必ス其債權ヲ届出ツル等ノ手續ヲ順ミ之ヲ黙々ニ付スヘカラス故ニ此等ノ事ヲ述フルニ付テハ左ノ順序ニ從ハントス

第一 債權ノ届出

第二 債權ノ調査

第三 債權ノ確定

第一 債權ノ届出

債權者ハ凡テ第一千二十二條ニ由リ破産主任官ノ名宛ヲ以テ其債權ノ届出ヲ爲サ、ルヘカラス然レトモ法律ハ此債權届出ヲ爲スヘキ催告ハ別ニ之ヲ爲スコトヲ要セス何トナレハ法律ハ破産決定書ヲ公告シタルトキハ之ヲ以テ債權届出ノ催告ヲ爲シタルモノト看做セハナリ(第九八〇條)債權届出ノ催告ハ破産宣告ノ報告ヲ知ルニ由ナキ場合ニアリテ之ヲ爲スコトアリ例ヘハ外國ニアル債

權者ノ如キハ時ニ之ヲ知ラシムル必要アルコトアリ是レ之ヲ知ラシムルハ特別ノ待遇ニ出テタルモノナルカ故ニ債權者ニ於テ其通知ヲ受ケサレハトテ異議ヲ申立テ若クハ損害賠償ヲ求ムルカ如キハ之ヲ爲ス能ハサルハ勿論ナリ而シテ債權ヲ届出ツヘキ期間ハ三ヶ月ヨリ短カラス六ヶ月ヨリ長カラサル間ヲ以テ裁判所ノ見込ニ依リ定ムルモノトス(第九八〇條)第五項若シ此届出ヲ怠リタルトキハ其制裁ハ第一千二十五條第四項并ニ第一千二十九條ノ規定スル處ナリ債權ヲ届出ツヘキ書面ハ二通ヲ要ス其一通ハ管財人ニ交附シ他ノ一通ハ裁判所ノ用ニ供センカ爲メナリ但届出ハ必スシモ書面ヲ要スルモノニアラズ口頭ヲ以テ爲スモ差支アルコトナシ口頭ヲ以テ届出ヲ爲シタル場合ニハ裁判所書記ニ於テ其二通ノ證書ヲ作製シ一通ヲ管財人ニ交附シ一通ヲ裁判所ニ留存ス而シテ其債權届出ヲ爲レタル債權者ハ書類ヲ送達シ且ツ呼出ヲ必要トスルコトアルヲ以テ若シ債權者カ他所ニ住スル場合ニアリテハ其代人ヲ定メテ其旨ヲ届出テサルヘカラス此届出モ亦二通ヲ要ス債權届出ト同様ナリ

債權届出書ニ記載ス可キコトハ

(一) 債權ノ合法ノ原因

(二) 請求ノ金額

(三) 若シ優先權アルモノハ其明記

(四) 證據書類又ハ謄本ヲ添ヘサル可カラズ

元來債權届出書ハ單ニ債權ノ届出ニシテ訴狀ニアラサルヲ以テ之ニ貼付スヘキ印紙ノ如キハ僅ニ二十錢ニテ足レリ從來ノ身代限ニ於テハ一般ノ訴狀提出ト異ナラサルヲ以テ其書式ハ訴答文例ニ依リタルモ本法ニ於テハ單ニ届出ヲ以テ足レリトシ大ニ其手數ト費用トヲ除キタリ甚タ進歩シタルモノト云フヘシ何トナレハ破産法ハ急速ヲ要スルモノニシテ破産者ノ逃亡財産ノ隠匿等ヲ豫防セサル可カラサレハナリ

第二 債權ノ調査

調査會ハ通例債權届出期間ノ滿了後十日乃至十五日間ニ之ヲ開クモノニシテ(第一〇二五條第三項)破産主任官管財人各債權者及ヒ破産者ヲ以テ之ヲ組織シ破産主任官ノカ主任トナリ各債權ノ真偽種類ヲ調査シ自ラ其調査ヲ作ルモノ

ナリ普通ノ場合ニ於テハ調査ハ書記ノ作ル可キモノナレトモ此調査ハ破産主任官自ラ之ヲ作製ストセリ但債權者若クハ破産者ハ其席ニ出席セサルモ調査上ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ第一〇二五條第一項)而シテ破産主任官ハ調査ヲ爲ス爲ニ職權ヲ以テ債權者ノ取引帳簿其他抜書ノ提出ヲ命スルコトヲ得(同上第二項)

調査上ノ調査ニハ如何ナルコトヲ記載ス可キカ佛國商法第四百九十五條ハ之ニ記載ス可キ事柄ヲ規定セリ曰ク

債權者并ニ其代理人ノ住所ヲ示シ又證書ノ簡略ナル明記ヲ書キ加ヘ相違ノ點アレハ其旨ヲ記載シ及其債權ハ承諾シタルカ將タ之ニ付キ異議アリシヤヲ明示ス可シ

トアリ此等ノ事ハ我法典ニ於テハ少シモ規定スル處アラサルモ要スルニ佛國法ノ如ク記載スルヲ以テ素ヨリ至當ノ事ト信ス

抑モ調査會ナルモノハ債權ノ届出アリタル後ニアラサレハ之ヲ開ク能ハサルヲ以テ其届出ハ相當ノ期間内ニ爲ササル可カラストハ雖モ其届出ヲ遅レタル

カ爲ニ全ク債權ヲ失フモノニアラス即チ債權届出ヲ遅レタルトキハ左ノ如ク區別ス

甲 届出期限後調査會ノ終了前ニ届出テタル債權

乙 調査會ノ終了後届出テタル債權
此二類ニ依リテ差異アリト雖モ此等ノ債權モ尙配當ヲ受ク可キ權利ヲ失フモノニアラス唯右二者ノ異ナルコトハ甲ノ場合ニ於テハ管財人又ハ他ノ債權者ヨリ其届出ノ債權ニ對シ異議ヲ申立テタルトキニ限り調査會ヲ開クニ付テノ費用ヲ負擔セサル可カラスシテ乙ノ場合ハ債權者ニ於テ常ニ費用ヲ負擔セサル可カラサルコトナリ

第三 債權ノ確定

債權確定ハ調査ニ依リテ生スルモノニシテ其調査ヨリ生スル結果左ノ如シ

- (一) 債權ノ確定
- (二) 債權ノ異議ヲ受クルコト
- (三) 債權者ノ遅延ニ付セラルコト

(一) 債權ノ確定 債權ハ承認又ハ裁判所ノ判決ヲ以テ確定ストアリ第一〇二

六條此ノ場合ノ承認ハ何人ノ爲スモノナリヤト云フニ普通ノ訴訟ニ於テハ被告ノ承認シタルモノヲ云フト雖モ破産法ニ於テハ管財人及ヒ各債權者ノ異議ヲ申立テサル場合ニ於テ承認セラルハモノトス破産ノ場合ニ於テハ破産者ニハ異議ヲ申立ツルノ權利アルコトナシ何トナレハ破産處分中ハ破産主任官及ヒ管財人等ハ破産者ノ權利ヲ保護スレハナリ此規定ハ獨逸破産法第三十條ニ基因シタルモノナリ佛國、白耳義等ノ法律ニ於テハ破産者モ亦異議ヲ述フルヲ得トセリ然レトモ此等ノ規定ハ管財人カ破産者ノ爲ニ働キ居ル間ハ必要ナキノミナラス反テ害アリテ利益ナキモノト信ス若シ破産者ノ異議ヲ容ルハコトヲ許ストセハ破産者ハ無暗ニ異議ヲ申立テ破産處分ヲ遅延セシメ若クハ障害スルコト少シトセス唯其陳述ヲ聞キ異議ヲ述フルヲ以テ足ルモノトセハ管財人之ニ代テ異議ヲ申立ツレハ足レリ之レ我法律ニ於テ破産者ニ異議ヲ述フルヲ許サ、ルノ理由ナリトス若シ管財人債權者ノ一人ナルトキハ債權者トシテ破産上ノ異議ハ破

產主任官之ニ代テ爲スモノトス

凡ソ債權ニ付キ異議ヲ述フルトキハ之ヲ承認シタルモノト爲ス能ハサルハ勿論ナレトモ一旦異議ヲ述フルモ之ヲ取消シタルトキハ初メヨリ異議認セラレタル債權ハ最早調査ノ終リタル後ハ更ラニ異議ヲ申立ツルヲ得ルヤ否ヤノ問題アリ此問題ニハ二説アリ其一ニ曰ク債權ノ承認ハ債權者ニ詐欺ノナキ限リハ確實ニシテ之ヲ動かス可カラサルモノトス故ニ承認ハ更ニ異議ヲ述フルノ權ヲ拋棄シタルモノナリト云フニアリ其二ニ曰ク承認セラレタル債權ハ未ダ破産ノ終結ニ至ラサル間ハ單ニ詐欺ニ付テノミナラス錯誤ニ於テモ承認ヲ取消スコトヲ得ト此説ハ承認ヲ以テ權利ノ拋棄トナサス何レモ自白ト認メタルモノナリ予ハ後説ヲ穩當ナリト信ス何トナレハ權利ノ拋棄ハ猥リニ推測ス可キモノニアラサレハナリ

(二) 債權者ノ異議ヲ受ケタル場合 前ニ述ヘタル如ク異議ノ申立アルトキハ其申立人ヲ以テ原告トナシ異議ヲ受ケタルモノヲ被告トナシ裁判所之ヲ

決スルコト、ナス此ノ判決ハ迅速ヲ旨トスルヲ以テ通常ノ判決ニ於ケルカ如ク各債權者毎ニ一々判決ヲ爲サス成ル可ク總債權ヲ合併シテ一ヶノ判決ヲ下スヲ以テ通例トス只難訴トカ其他特別ノ事情アリテ合併審理ヲ爲ス能ハサルトキハ各個ニ裁判ヲ爲ス可キモノトス又通例ノ訴訟ニハ準備書面ヲ要スルモ破産ノ場合ニハ單ニ債權ノ届出アルヲ以テ足レリトス換言セハ債權届出ハ訴訟ノ準備書面ニ代ルモノニシテ異議アルトキハ直ニ裁判所ニ廻シ破産主任官ノ命令ヲ以テ裁判ニ着手シ而シテ當事者欠席ヲ爲ストキハ通常ノ訴訟ニ於テハ故障ノ申立ヲ爲シ之ニ對スル判決アラザレバ控訴ヲ爲スヲ得サルモ破産ノ場合ニハ故障ヲ爲スヲ得スシテ直ニ控訴ヲ爲スヲ得之レ無用ノ手數ヲ除キ費用ヲ減セシカ爲ナリ(第一〇二七條)異議ノ判決ハ成ル可ク債權ノ確定ヲ得タル債權者ヲシテ債權者集會ニ加ハラシメシカ爲ニ其集會前ニ之ヲ爲サシル可カラスト雖モ判決ヲ急ニ下スコト能ハサル爲ニ集會ヲ延引シ配當ヲ遅延スルカ如キコトアルハ事ノ宜シキヲ得タルモノニテアラサレヲ以テ破産主任官ハ其事情ヲ酌量シテ債權

ノ確定前即チ判決前ニ於テ集會ニ加ハ、ルコトヲ得セシムルコトアルヘシ同一ノ理由ニ依リ其判決ニ對シ控訴ヲ爲スモノアルトキハ主任官ノ見込ニ依リ訴訟中ノ債權者ヲモ債權者集會ニ加ハ、ルコトヲ得セシムヘシ若シ控訴ノ判決アルマテ異議ヲ受ケタル債權者ハ集會ニ加ハルコトヲ得ストモハ破産者ハ二三ノ債權者ト共謀シ他ノ債權者ニ異議ヲ唱ヒテ以テ訴訟中ニアラシメ其間ニ債權者集會ヲ開キ以テ協議契約等ヲ爲スコトナシトセス故ニ承認サレタル債權者甚少ク且右ノ如キ事情アリト認メタルトキハ其見込ヲ以テ異議アル債權者ヲシテ債權者集會ニ加ハルコトヲ得セシム然シ集會ノ決議ハ債權ノ額ヲ調査セサル可カラサルヲ以テ其集會ノ加入者ハ幾何ノ金額ノ債權者トシテ加ハルヘキモノナルカヲ定メサル可ラス何トナレハ債權届出ハ未タ債權額ヲモ確定シタルモノナリト云フ能ハヤレハナリ

抵當權又ハ書入質權ノ如キ附從ノ權利ニ付キ異議ヲ爲ス場合ニ在リテハ優先權ナル債權者トシテ集會ニ加ハルコトヲ得サルモ通常ノ債權者トシ

テ異議ナキモノナルヲ以テ通常ノ債權者トシテ集會ニ加ハルコトヲ得ルハ勿論ナリ

(三)

債權者ノ遅延ニ付セラル、コト 財團ノ配當ハ各債權者ニ平等均一ニ分配セサル可カラサルヲ以テ可成丈同時ニ之ヲ爲サ、ルヘカラス然レドモ債權者ニ於テ正當ノ時期ニ債權ノ届出ヲ爲サス又ハ正當時期ニ届出タルモ異議ヲ受クル等ノ事アリテ長ク債權ノ確定セサル場合ニハ各債權者ニ同時ニ配當スル能ハサル場合アリ何トナレハ一般ノ配當ヲ遅延セシムルコトアラハ他ノ債權者ハ之カ爲メ大ナル不利益ヲ被ルコトアレバ是ヲ以テ債權届出ヲ怠リタルトキハ第千二十五條ニ由リ新ニ開クヘキ調査會ノ費用ハ其届出ヲ怠リタルモノ之ヲ負擔シ加之第千二十九條ニ依ルニ後ノ確定ニ依リテ爲スヘキ財團ノ配當ニアラサレハ加入スルコト能ハサルコト、ナレリ例ヘハ財團ノ總額ヲ一万圓トシ其中三千圓ハ既ニ之ヲ各債權者ニ配當シタルトキハ後ニ届出テタルモノハ其殘額七千圓ニ付キ單ニ其割合ヲ受クルカ如シ之レ自己ノ怠慢ヨリ生スル損害ニシテ亦如

何トモスル途アルコトナシ然シテ此債權ハ假令破産者ヨリ差出シタル債
 借對照表ニ記入セラレタルモノト雖モ自己ノ債權ヲ届出テサルトキハ其
 懈怠ノ結果トシテ同一ノ制裁ヲ受クヘキナリ又債權届出ハ正當ニ之ヲ爲
 スモ異議ノ爲メ其債權ノ確定セザルモノニ付テモ亦同シタ其確定以後ニ
 於テ加ハルコトヲ得セシメ他ノ債權ニ付テハ直ニ配當ノ手續ニ及フヘキ
 ハ右同上ノ規定スル處ナリ然レトモ此場合ニ在リテハ債權者ニ於テ少シ
 モ懈怠ノ責ムヘキナキヲ以テ債權者カ債權ノ届出ヲ爲サ、リシト同一視
 スヘカラサル所ナリトス故ニ法律ハ此場合ニ於テハ異議ノ存スル全額ヲ
 以前ノ配當ニ於テ引去リ之ヲ留存スヘキモノトセリ又外國ニ在ル債權者
 ノ爲ニ届出ノ期日ト調査會ノ期日ヲ別段ニ定ムルコトアリ此場合ニ於テ
 ハ其債權者ノ受クヘキ配當額ヲ引去リ留存シ他日届出ノアリタルトキ之
 ヲ配當スヘキモノトス但シ特ニ定メタル期日ヲ經過スルモ尙届出ナキト
 キハ前ニ留存シタル財産ハ更ニ之ヲ割戻サ、ルヘカラサルハ當然ナリトス

第二節 特種ノ債權者

書入抵當ヨリ生スル優先權ヲ有スル債權者モ亦普通ノ債權者ニ比スレハ特種
 ノ債權者ト云フヲ得ヘシト雖モ茲ニ特種債權ト云フハ此ノ如キモノヲ謂フニ
 アラスシテ破産法上一般ノ原則ニ隨フヘカラサルモノヲ云フ左ノ如シ

第一 共同義務者及ヒ保證人

第二 破産法ニヨリ特別ノ債權ヲ與ヘラレタル債權者

第一 共同義務者及ヒ保證人

債權ハ連帶又ハ保證ニ依リテ擔保セラレルコト往々之アリ殊ニ商事ニ於テ其
 例多シトス即チ組合ニ於ケル組合員會社ニ於ケル社員又ハ爲換手形約束手形
 ノ振出人引受人裏書人或ハ共謀ノ犯罪人ノ如キ是レナリ此等ノ場合ニ於テ債
 權者カ共同義務者ニ對シテ有スル義務ハ如何又共同義務者間ニ於ケル相互ノ
 義務ハ如何ト云フニ此問題ニ關スル法律ノ規定ハ第千三十條及ヒ第千三十一
 條ニ於テ之アリ第千三十條ハ債務者一人ノ破産シタル場合ニ係リ第千三十一
 條ハ債務者二人以上ノ破産シタル場合ニ關ス

甲 債務者一人ノ破産シタル場合

連帶義務者中ノ一人破産シタルトキハ債権者ハ他ノ債務者ニ對シテ要求ノ權利ヲ有スルハ勿論ナリ何トナレハ共同義務者ハ支拂ヲ爲シテ始メテ其義務ヲ免カルヲ得ルモ當ニ債務者一人ニ對シテ要求シタルカ爲ニ之ヲ免カルハモノニアラサレハナリ而シテ協諾契約ニ依リ主タル債務者ニ幾分ノ債務ヲ宥想シタルモ此宥想ハ他ノ債務者及ヒ保證人ニ及ハス他ノ債務者及ヒ保證人ニ對シテハ依然債權ノ全額ヲ要求スルヲ得ヘシ例ヘハ要求額ハ千圓ニシテ協諾契約ノ爲メ債権者其半額五百圓ヲ得タリトセハ債権者ハ破産者ニ對シテハ要求額ノ半額ヲ以テ満足シ其他ノ半額ハ之ヲ拋棄シタルモ五百圓ハ共同義務者ニ對シテ要求スルノ權利アリ何トナレハ協諾契約ハ破産處分ノ結果ニ因リ個々ノ債権者ニ承諾セシムルモノニアラサレハ債権者ノ意思ニ出テサルコトアルノミナラス保證人及ヒ連帶義務者ニテ債務者カ支拂ヲ停止シ及ヒ之カ爲メ生ヅタル協諾契約ノ爲ニ其義務ヲ免カルニ於テハ保證ノ保證タルヘキ効力消滅スレハナリ蓋シ義務者ノ數ヲ多クシタルハ其一

人支拂ハス又ハ支拂ノ充分ナラザルトキニ債権者ニ安全ヲ與フヘキカ爲ニ過キス故ニ協諾契約ハ破産者ノ一身ニ止マリ他ノ共同義務者ニ及ハストセサルヘカラス(第一〇三〇條前段)

保證人又ハ共同義務者カ其債務者ニ對シテ代償ヲ爲セタルトキハ債務者ノ破産ニ依リ満期ノ來リタルモノトシテ其償還請求ヲ爲スヲ得ルハ通常ノ債權ト異ナラス去レトモ協諾契約存スルトキハ保證人及ヒ共同義務者ハ債権者ニ對シテ其殘額ノ代償ヲ爲シタルニ係ハラス破産者ニ對シテ之カ償還ノ請求ヲ爲スヲ得スシテ協諾契約ニ隨ハサルヘカラス例ヘハ協諾契約ニ依リ債務者ハ債權額ノ半ヲ得ルコト、ナリ殘餘ノ半額ヲ他ノ共同債務者又ハ保證人ヨリ辨濟ヲ受クルモ共同債務者又ハ保證人ハ其辨濟シタル金額ヲ請求スルヲ得ス蓋シ若シ然ラストセハ破産者ハ一債權ニ就キ二重ノ割前ヲ以テ支拂ヲ爲スコト、ナリ折角與ヘタル宥想モ其甲斐ナキノミナラス正當ノ配當ハ之ヲ爲ス能ハサレハナリ

乙 二人以上ノ債務者破産シタルトキ

二人以上ノ共同債務者カ破産シタルトキハ其各義務者ノ破産ニ於テ債權ノ全額ヲ届出ツルコトヲ得ルハ第一千三十一條第一項ノ規定スル處ナリトス故ニ今甲乙二人ニテ千圓ノ義務ヲ負擔シ其二名トモ破産シタルトキハ債權者ハ甲ノ財團ニ對シテモ乙ノ財團ニ對シテモ各千圓ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ之レ連帶義務者ハ獨立シテ債務ノ全額ヲ負擔セザルヘカラサルカ故ナリ然レトモ各財團ノ配當孰モ五割以上アルトキハ甲ヨリモ五百圓以上乙ヨリモ五百圓以上ヲ得ヘク又甲ハ三割ニシテ乙ハ九割ナルトキハ甲ヨリ三百圓乙ヨリ九百圓ヲ得ヘクシテ債權者ハ債權額ニ超過シタル配當ヲ受タルコトアルヘシ此ノ如キトキハ該債權者ニ於テ超過ノ部分ヲ返還セザルトキハ不當ノ利得ヲ受タルコトナルヲ以テ其超過シタル部分ハ之ヲ共同義務者ニ返還セザルヘカラサルコト議論アルコトナシ故ニ前例ニ於テ甲ヨリモ五百圓以上乙ヨリモ五百圓以上ヲ受取リタルトキハ其殘額ハ之ヲ清算ノ上兩義務者ニ返戻セザルヘカラス又甲ヨリ三百圓乙ヨリ九百圓ヲ得タルトキハ其餘分ノ二百圓ハ之ヲ乙ノ財團ニ即チ償還請求權ヲ有スル財團ニ返戻セザルヘ

第二節 株主ト會社トノ關係 第二節 株主間ノ關係

第三節 組織及業務施行 第三節 取締役ノ權利義務

第四節 定款ノ變更 (定款ノ變更ハ總則中ニ規定セリ)

第五節 會社ノ解散及不成立 第四節 會社ノ解散

第六節 罰則 第四章 罰則

第四章 株式合資會社 (第二章第二節株式合資會社)

第五章 匿名組合 第三編 共算組合

第一節 匿名組合

第二節 共算組合(新法ニハ制限)

第三編 商行為 第四編 商行為

以下章節略ス

第四編 海商(新設)

(獨逸ニテハ手形法破産法ハ已ニ特別法トシテ發布セラレタリ)

第一編 總則

二八

總則ナル名稱ハ種々ナル意義ニ用非ラルル現行商法ニ於テ總則ト稱スルハ商
事ニ適用セラルヘキ法令ニ關スル規定ヲ謂フナリ是獨逸現行法ノ編纂体ニ
習ヘルナリ新商法ニ於テハ之ニ反シテ總則編中ニ舊商法ニ所謂ユル總則ヲ
第一章トシテ規定シ第二章以下ニ於テハ商事ノ主体即商人ニ關スル規定ヲ
設ケタリ蓋シ商法ハ商事ニ關スル法規ナルヲ以テ先ツ商事ニ關シテ適用セ
ラルヘキ法令及商法ノ適用區域ヲ定メサルヘカラス又法令ノ適用ヲ受クル
者ハ商事其物ニ非スシテ寧ロ商事ノ主体タル人ナリ而シテ通常商事ノ主体
タル者ハ商人ニシテ又商人ニ關シテ特ニ一定ノ規定ヲ必要トスルカ故ニ第
二章ニ商人ヲ規定シ第三章ニハ商業上一定ノ事項ハ商人ヲシテ登記セシム
ル必要アルカ故ニ商業登記ヲ規定シ第四章ニハ商人ノ商業上ノ稱呼即商號
第五章ニハ商人ノ備ヘ置クヘキ帳簿即商業帳簿ヲ規定シ第六章第七章ニ於
テハ商人ノ商業機關タルヘキ使用人及代理人ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第一章 法例

法例ニ於テ規定スル所ハ第一商事ニ關シテ適用セラルヘキ法令第二商法ノ適
用セラルヘキ區域ナリ

第一 商法ノ適用セラルヘキ區域
己ニ緒論ニ於テ述ヘタル如ク商法ハ商事ニ固有ナル法ナリ故ニ商法ノ適用區
域ヲ知ラント欲セハ先ツ商事範圍ヲ論定セサルヘカラス現行商法第三條ハ商
事ノ定義ヲ下シテ曰ク商事トハ商人又ハ其他ノ人ノ爲シタルニ拘ハラズ總テ
ノ商取引及其他本法ニ規定シタル事項ヲ謂フト是商事ノ範圍ヲ客觀的ニ定メ
タルモノニシテ事項ノ性質ニツキテ商事ト非商事トヲ區別スルコト能ハス且
夫商法ヲ講究スルニ當リテ先ツ商事ノ何物タルヲ知ラサルヘカラスハ商法
ノ適用區域ヲ知ラシカ爲メナリトセハ商事ハ商法ニ規定セラレタル事項ナリ
ト謂フハ恰モ一ハ一ナリト云フカ如ク定義トシテ掲タルノ要ナキノミナラス
會マ商法典ニ規定セラレサル事項ニシテ其性質商事ニ屬スヘキ事項アルモ之
ニ商法ヲ適用スルコト能ハサルヘシ新商法ニ於テハ商事ノ定義ヲ下タスコト
ヲ避ケタリ蓋シ之ヲ學說ニ讓レルナリ學者ノ商事ヲ解説スル者其說亦一定セ

ス例ヘハ「ガライニス氏曰ク商事トハ第一商人ニ固有ナル法律關係ナリ第二商行為ニ因リテ設立セラレ又ハ之ト同視スヘキ法律關係ナリト」(ペーレンド氏曰ク商事トハ商ニ屬スル法律關係ナリ商ニ屬スル事項ニシテ法規ニヨリ定メラレ民法規定ニ從ハサルモノハ商事ナリト)「コサック氏曰ク商事トハ商人ノ營業ニ屬スル總テノ私法事項ヲ謂フ故ニ同一事項ニシテ商人カ之ニ關係スルト否トニ由リテ或ハ商事トナリ或ハ非商事タルコトアリト又普魯西ノ帝國商法施行法第二條ハ商法第一條ノ商事ヲ解釋セテ曰ク商事トハ下ノ如キ私權關係ヲ目的トスル所ノ法律事項ナリ(一)商行爲ニ因リテ當事者間ニ起ル所ノ法律關係(二)商事會社社員相互間ノ法律關係共算組員間ノ法律關係組合又ハ會社ノ成立中ト解散後トヲ問ハス及組合又ハ會社ノ清算人又ハ業務擔當人(取締役)ト組合又ハ會社若クハ組合員又ハ社員トノ法律關係(三)商號使用權ニ關スル法律關係(四)存立スル商行爲ノ讓渡ニ因リ當事者間ニ生スル法律關係(五)商業使用人ト商業主人トノ法律關係及第三者ニ對シテ或法律行為ニ關シテ商業使用人トシテ責任ヲ負フヘキ者(獨逸商法第五十五條)ト第三者トノ法律關係(六)仲立人ノ業務ヨリ

生スル仲立人ト契約當事者トノ關係(七)海商法上ノ法律關係……ト蓋シ列舉主義ヲ採レルナリ

已ニ述ヘタル如ク商法ニ於テ商事ト云フハ商法ノ適用區域ナリ商法ノ適用區域ハ各其商法ノ立法主義ニ因リテ異ナルヘキヲ以テ抽象的ニ商事ノ定義ヲ下タスコト能ハス而シテ商法ノ適用區域ニ關スル立法主義ハ大別シテ三種アリ

第一ハ主觀主義ナリ第二ハ客觀主義ナリ第三ニハ折衷主義ナリ蓋シ商ナル意義ヲ定ムルニ種々ナル觀察點アルノミ(一)經濟上ヨリ商ノ意義ヲ講究スルトキハ商トハ原形ヲ變メスシテ營業的ニ貨物ヲ運轉スルコトヲ謂フ而シテ此狹義ノ商ヲ補助シ又ハ容易ナラシムル行為ニシテ營業タルモノモ亦商タリ例ヘハ運送業銀行業等ノ如シ是其性質狹義ノ商ト離ルヘカラサルモノアルカ爲メナリ此ノ如ク其性質ヲ推シテ其行為ヲ判別スル結果ハ遂ニ或行為ハ營業上ノ行為ニアラサル場合ト雖モ一定ノ性質例之ハ營利的アルカ爲メニ商行爲ト看做サル、モノアルニ至ル是主觀主義ノ商ナリ(二)之ニ反シテ商ノ意義ヲ商人ナル觀念ヨリ觀察スル者アリ商人ノ營業上ノ行為ハ其營業者ノ身分關係ヨリ商法

規定ノ適用ヲ受クヘシトナシ而シテ商人ノ行爲ナルトキハ會々其商人ノ營業ニ屬セザル行爲ト雖モ他ノ商人ノ營業行爲ニ屬スルモノナルトキハ亦商行爲トシテ商法ノ支配ヲ受クヘシト謂フ是即主觀主義ナリ(二)更ニ此兩主義ヲ折衷シタル主義アリ即ち原則トシテ商ナル意義ヲ客觀的ニ定ムルト同時ニ或種類ノ事項ニ在リテハ其商人ノ營業ニ屬スルカ爲メニ商事中ニ含有セラレハナリ獨逸現行商法及我新舊商法ノ主義是ナリ此ノ如ク立法主義ニ從テ商法ニ所謂商ナル觀念ハ一定セザルナリ蓋シ經濟上商ナル觀念ハ一ナリト雖モ商法ニ於ケル商ノ意義ハ其商法ノ適用區域ヲ定ムルモノナルカ故ニ一ニ立法ノ便宜ニ從テ定マルナリ

備考 主觀主義ノ立法ハ曾テ歐洲中世ニ於テ行ハレタル所ナリ當時各國市府ニ於テ商業ノ發達スルニ從ヒ商人ハ自ラ一團體ヲ組織セテ別種ノ階級ヲ作シ各自ラ法律ヲ作リテ支配セリ是所謂商團體法時代ナリ乃チ當時ハ商法ト商人法トハ同一物ニシテ商人法外ニ商法ナカリシナリ近世ニ至リ制定法主義盛ニ流行シタルヲ以テ此團體法ハ盡ク消滅シタリ

シカ獨逸帝國ニ於テハ更ニ現行法ノ折衷主義ヲ排斥シテ商人法主義ニ復歸シタリ

我商法ノ折衷主義ニ從ヘハ商事トハ商ニ屬スル法律關係ナリト云フヲ以テ足レリトス而シテ法律關係ヲ區別スルトキハ行爲ト行爲ニ非サル事項トニ區別スルコトヲ得ヘシ故ニ商事トハ商行爲及其他商ニ固有ナル法律事項ナリト謂フコトヲ得ヘシ

商法ハ商事ヲ規定スルモノナリ故ニ商法ノ適用區域ハ商事ナリ然レトモ本來商事ニ非スシテ實際上商法規定ヲ適用セザルヘカラサルモノアリ何ソヤ當事者ノ一方ニ商行爲ニシテ他ノ一方ニハ商行爲ニ非サル場合ニ於テ其一方ニシテ商法ヲ適用スルハ甚タ不便タルヲ免カレス故ニ此場合ニ於テハ双方ニ商法ヲ適用ス是新商法第三條ニ規定スル所ナリ現行法ニ於テハ第二章ニ商事及商法ナル標題ヲ掲ケテ第十六條ニ之ト同様ノ規定ヲ設ケタリシカ新商法ニ於テハ商事ナル標題ヲ削リシヲ以テ之ヲ法例中ノ一條トセリ

商法ハ私法ナリ私法關係ヲ定ムルモノナリ故ニ商事ニシテ私法關係ニ屬スル

モノハ商法ノ適用ヲ受クヘシ會マ公法人ニシテ商行為ヲ爲ス場合ニ於テ之ニ商法ノ適用アルヘキハ論ヲ待タス且特別ノ法律ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此限ニ在ラス然レトモ公法人ノ行為ハ私法行為ト雖モ國家ノ行政上通常私法ノ規定ヲ適用シ難キ場合尠カラサルヲ以テ往々行政命令ヲ以テ便宜特別ノ規定ヲ設ケルノ必要アルヘシ故ニ新商法第二條ニ於テハ公法人ノ商行為ニ對スル商法ノ適用ヲ法令ニ別段ニ定ナキ場合ニ限レリ是は法令法律ノミナラス(ニ商法ノ適用ヲ免除スルノ權限ヲ與ヘタルナリ蓋シ商法ハ法律ナルヲ以テ命令ヲ以テ其適用ヲ免除スルコトヲ得ス是第二條ノ必要アル所以ナリ

第二 商事ニ適用セラルヘキ法規

商事ニ關シテ第一ニ適用セラルヘキ法規ハ商法ナリ商法ハ商事ニ關スル特別法ナリ民法ノ例外法ニ非ス其適用區域ハ民法ノ適用區域ト全然分別アルナリ故ニ商事ハ商法ノ獨占區域ニシテ民法ノ適用ヲ受クヘキモノニアラス然トモ商事中普通民事ト其規定ヲ異ニスル必要ナキモノ甚タ尠シトセス此ヲ以テ己ニ民法法典ニ規定セラレタル事項ニシテ商事ニモ適用スルコトヲ得ヘキモノ

權限ハ之ヲ一定スルカ又ハ率口之ヲ狹隘ノ範圍ニ制限スルヲ可トスルニ至リ他方ニ於テハ通信事業ハ益々改良進歩スルカ故ニ船長ニ斯ル權限ヲ與フルノ必要ナキニ至リ殊ニ海事制度ニ通曉セル人々ハ一般ニ皆船長ニ斯ル權限ヲ與フルノ不可ナルコトヲ主張シタリ故ニ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ積荷ヲ處分シ得ルノ外普通ノ場合ニ於テ船長カ積荷當事者ノ代理人トシテ積荷ヲ賣買讓與スルカ如キハ將來廢止セラル、ニ至レリ

(ニ海員ト船舶所有者トノ關係ハ從前ノ組合關係殆ント全ク消滅シテ今ヤ雇傭契約ノ關係ニ立テリ而シテ運送賃ハ給料ノ母ナリトノ原則モ亦一部ハ廢止セラレ一部ハ本來ノ意味ヨリ全ク異リタル仕方ニ解釋セラル、ニ至レリ蓋シ此原則ニ代アルニ制限義務ノ主義ヲ以テシタルモノニシテ船舶所有者ハ海員ノ給料ニ付テモ無限責任ヲ負ハサルコト、ナレリ隨テ海員ノ給料請求權ハ船舶所有者カ利益ヲ得タルキ否ヤノ點ニ關セスシテ船舶所有者カ損失ヲ爲ササルヤ否ヤノ點ニ關セリ詳言スレハ彼レカ海產ヲ失ハサルヤ否ヤノ點ニ關セリ即チ船舶所有者カ利益ヲ得タルキ否ヤヲ問ハサル所以ノモノハ是レ運送賃ハ給料ノ

母ナリトノ原則ノ一部廢止セラレタルモノニシテ又其損失ノ有リタルト否ト
 ヲ問ハス海產ヲ失ハサル限リハ之ヲ以テ給料辨濟ノ責ニ任スル所以ノモノハ
 是レ此原則ノ一部本來ノ意味ト異リタル仕方ニ解釋サル、ニ至リタルモノト
 云フヘキナリ何トナレハ運送貨ハ給料ノ母ナリトノ原則ハ船舶所有者カ運送
 貨ヲ取得スルコト多ケレハ隨テ給料ヲ多ク與ヘ之カ取得全ク無ケレハ給料モ
 亦全ク之ヲ與ヘサルノ意ナレハナリ而シテ船舶所有者カ海員ノ給料ニ付テモ
 海產ノ範圍ニ於テ制限義務ヲ負フノ規定ハ其始メ何レノ地方ニ於テモ皆行ハ
 レタリト雖モ是レ海員ニ對シテ酷ニ過タルコトヲ漸次ニ認識スルニ至レリ蓋
 シ其之ヲ認識シタルハ海員ヲシテ海難アルニ際シ自己ノ生命ヲ賭シテマテ十
 分ノ力ヲ盡サシメ換言スレハ海員ヲシテ自己ノ力ノアラン限り無限ノ勞務即
 ナ契約上ノ無限責任ヲ盡サシメントセハ其報酬タル給料ニ付テモ亦船舶所有
 者ハ無限責任ヲ負擔セサルヘカラサルナリ然ラスンハ海員ノ努力ヲ獎勵スル
 コト能ハサルナリ此等ノ理由ヨリシテ遂ニ諸國ノ裁判例并ニ立法例ハ給料ノ
 債權ニ付テ航海ニヨリテ之ヲ區別シ船舶カ歸航後未タ新ナル航海ヲ爲ザル

間ハ給料ハ其船舶ノミヨリ辨濟ヲ受クルコトヲ得然レトモ又新ナル發航ヲ爲
 シタルトキハ未タ辨濟ヲ受ケザリシ舊航海ヨリ生レタル給料ニ付テハ船舶所
 有者ノ陸產ヨリ辨濟ヲ受クルコトヲ得何トナレハ新ナル航海ヲナセハ其擔保
 ハ順次ニ減少スレハナリ又此外船舶所有者カ海員ニ對スル緊要ナル特種ノ附
 屬義務例ヘハ我新商法ニ付テ言ヘハ海員ノ看護并ニ療養ノ費用ノ如キ又ハ其
 雇入港マテ返還スル費用ノ如キハ右ノ規定ニ拘ハラヌ船舶所有者ハ當然無限
 責任ヲ負擔スルモノトセリ然レトモ右ノ規定ハ未タ以テ十分ナル保護ヲ海員
 ニ與フルニ足ラス何トナレハ船舶カ航海ニ堪ヘテ新ナル航海ヲ爲セハ始メテ
 陸產ニ對シテ請求スルコトヲ得トスレハ船舶カ航海能力ヲ有シ新航海ヲ爲ス
 コトヲ得ル場合ノ如キハ船舶モ安全ナルモノナルカ故ニ其船舶ニ付テ十分ナ
 ル辨濟ヲ受クルコトヲ得ルナリ唯其船舶カ航海ニ堪ヘスシテ殆ント其用ヲ爲
 ナス又ハ全ク沈没シタル場合ニ於テハ其船舶ニ付テ辨濟ヲ受クルコトヲ得サ
 ルカ故ニ此時ニ於テ大ニ海員ヲ保護スルノ必要アルモノナレハナリ於是乎右
 ノ規定ノ不十分ナルコトヲ認メ今世紀ニ入りテハ世界ノ大海國ハ大概ニ皆海

員ノ勉努ヲ獎勵スル爲ニ其雇傭契約上ノ權利ニ付テハ船舶所有者ハ無限責任ヲ負擔スルコトトナレリ

(ホ) 船員ノ勞務ニ對スル船舶所有者カ支拂フヘキ報酬即チ給料ニ付テハ變遷ヲ見ルニ本期ノ初メニ於テハ其報酬タルヤ二個ノ部分ヨリ成レリ殊ニ北海地方ニ於テ然リトス即チ其一ハ金額ニシテ屢時ノ航海ヨリ其額モ定リ又其支拂ノ方法ニ付キテモ一定ノ習慣ヲ成スニ至レリ而シテ航海ニシテ若シ其航路カ延長セラレタルトキハ之カ増額ヲ爲サシムルヘカラス之ニ反シテ航海ノ期間ノミカ延長セタルトキ例ヘキ水結ノ爲ニ船舶カ空籠リヲナシ其時日ヲ延長シタルトキノ如キハ給料ハ之カ爲ニ増額セス唯其碇泊中ノ賭料ヲ船舶所有者ガ支拂セサルヘカラサリシナリ他ノ一ハ船員ヲシテ其階級ニ隨ヒ無賃ニテ一定ノ商品ヲ携帶スルコトヲ許シタルコト是ナリ而シテ此商品ニ付テハ國家モ特別ニ保護シテ關稅免除ノ權ヲ與ヘタリ然ルニ或ハ此權利ヲ濫用シテ國家ノ關稅權ヲ害シ又船舶所有者ノ利害ヨリ言フモ此制度ノ必スシモ至便ナルモノアテサリシカ故ニ諸國ノ立法ハ遂ニ此制度ヲ廢スルニ至レリ

タル所ノ資本額ハ百万圓ナレトモ其拂込額ハ四分ノ一即チ二十五万圓ニ過キス而シテ一方ニ於テハ其二十五万圓ヲ以テ器械ヲ買入レ原料ヲ買入レ且ツ工場ヲ建築シ他ノ一方ニ於テハ其工場及ヒ器械ヲ抵當ト爲シ尙買入レタル原料ハ之ヲ倉庫會社ニ寄託シ其預證書ヲ以テ銀行ヨリ借入ヲ爲シ以テ職工ノ賃銀ヲ拂ヒ役員ノ給料ヲ拂ヒ其他種々ナル費途ニ充ツルカ故ニ若シ其借入金ノ利息ニシテ高率ナルトキハ自ラ缺損勘定ヲ生スルニ至ルヘキハ固ヨリ當然ナリトス之ニ反シ縱令其金額ヲ拂込マサルモ必要ナル金額ノ拂込ヲ爲シテ然ル後其業ヲ營ムニ於テハ借入金ヲ爲スノ必要ナキヲ以テ高率ノ利息ヲ拂フノ必要モナク隨テ實際二万圓ノ利益アルトキハ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得ヘシ然ルニ今日ノ有様ハ皆ニ之ヲ配當スルコトヲ得サルノミナラス利息ヲモ拂ヒ得サルナリ予ハ之ヲ以テ單ニ資本ノ不足ヨリ生スルノ結果ナリトハ言ハス其工業ヲ營ム方法ノ上ニ於テ種々缺損ヲ生スヘキ原因アルヘシト雖モ要スルニ資本ノ不足利息ノ高率カ其最大原因タルコトヲ發見シ資本ノ不足ヲ療治スルノ最急務タルコトヲ感シタルナリ尙昨年福井ニ遊ヒ一ノ感動シタルコトアリ福井ハ

諸君ノ知ラル、如ク近年羽二重工業ヲ起セシ所ナリ初メ此地ノ先覺者カ西陣桐生足利等ノ隆盛ナルヲ見テ羽二重ノ工業ヲ企テ桐生ヨリ一人ノ羽二重織ノ教師ヲ雇ヒ又毎年一二名ノ人ヲ見習トシテ西陣へ派遣セシカ遂ニ今日ノ如キ盛大ヲ來シ其産出總額ハ明治二十年ヨリ昨年ニ至ルマテ毎年羽二重ノミニテ八百万圓其他絹緞傘ハンケチノ類ヲ合算スレバ九百万圓ノ巨額ニ上レリ而シテ其九百万圓ノ中ヨリ原料ニ充ツル生糸ノ代價ヲ減殺シタル殘額ハ實際上日本ノ富ヲ増加セルモノナリ殊ニ其羽二重ハ總ヘテ海外ニ輸出スルヲ以テ我國ノ工業トシテハ大ニ注目スヘキモノナリトス然ルニ昨年予カ親シク實見シタル所ニ依レハ其工業ノ裏面ハ實ニ慨嘆スヘキモノナリシ即チ其資本金額ハ各工業者ノ家ニ在ル固定資本ヲ除キ流動資本(運轉資本)トシテ見ルヘキモノハ僅ニ五十万圓ニ過キス此僅少ナル資本ヲ以テ年々九百万圓ノ事業ヲ營メル點ヨリ見レハ實ニ嘆賞スヘキモノナリト雖モ進ンテ其實際ノ事情ヲ探レハ寔ニ憐ムヘキ窮策ヲ施セリ即チ其製出シタル羽二重ハ之ヲ横濱ニ送り而シテ原料タル生糸ヲ横濱ヨリ仕入レ其羽二重ノ代價ト生糸ノ代價トヲ相殺シテ差額ヲ現

金ニテ受取リ一方ニ於テハ横濱ノ商人カ羽二重ノ代價ヲ現金ニテ支拂フコトヲ要セサルト同時ニ福井ノ工業者ハ原料ノ仕入ヲ現金ニテ爲スコトヲ要セザリシ此ノ如クニシテ僅ニ資本ノ欠乏ヲ支ヘ來リシカ近年交通ノ便漸ク開ケシト共ニ生糸ノ供給ハ全國何レノ所ヨリモ仰クコトヲ得テ横濱ヨリ之ヲ仕入ル、コトノ太タ不利益ナルニ至リ其結果トシテ代金相殺ノ簡便法ヲ用ユルコトヲ得サルコト、爲リ福井ノ經濟界ニ一大變動ヲ生ゼタリ然ルニ一昨年ノ暮ヨリシテ日本ノ經濟界ハ非常ニ資本ノ缺乏ヲ告ケ隨テ其利息ハ大ニ昂騰セシヲ以テ工業者ノ困窮ハ益々其度ヲ加ヘタリ加之福井ノ工業者カ資本ノ欠乏ニ困メラルコトヲ了知セル横濱ノ商人ハ羽二重ノ代價ヲ踏倒レテ奇利ヲ博シ隨テ製造者ハ種々ナル奸策ヲ施シテ粗製濫造ヲ爲シ海外ニ於ケル聲價ハ地ニ墮ツルニ至レリ福井ノ羽二重工業ハ實ニ右ノ如キ狀態ニ陥レルモノニシテ之カ原因ハ一ニ資本ノ欠乏ニ在リトス

前陳ノ如キ次第ナルヲ以テ日本ノ工業ヲシテ隆盛ナラシメント欲セバ第一ニ資本ノ充實ヲ努メサルヘカラス農業ノ爲ニハ農業銀行勸業銀行等アリ又商業

ノ爲ニハ日本銀行ニ於テ大ニ其融通ヲ助ケ金融ノ機關ハ畧ホ備ハレルニ拘ラ
ス工業ノ爲ニハ一トシテ此ノ如キ機關アルコトナレ予ハ工業銀行ノ組織其他
ノ點ニ付キ聊カ卑見ヲ有スルモノナリ然レトモ本日ハ之ヲ述フルノ暇ナキヲ
以テ次回ニ於テ之ヲ再演セン請フ之ヲ諒セヨ(滿場大喝采完)

○講義ノ開始 梅博士高法修正要領ハ先月十五日ヨリ開講シ一木博士行
政法ハ同廿五日ヨリ開講セシヲ以テ前者ハ第二部ニ後者ハ第三部ニ揭
載スヘシ尙ホ佛國政學博士デニモラール氏ノ羅馬法ハ先月三十日ヨリ開
講セシヲ以テ第一部ニ掲載スヘシ

○學位授與 本校講師中左ノ諸氏ハ今回文部省ヨリ特ニ法學博士ノ學位
ヲ授與セラレタリ

- 法律學士 寺尾 亨君
- 法律學士 一木喜徳郎君
- 法律學士 富谷銈太郎君
- 法律學士 河村讓三郎君
- 法律學士 松崎廣之助君
- 法律學士 田部 芳君

ノ爲ニハ日本銀行ニ於テ大ニ其融通ヲ助ケ金融ノ機關ハ畧ホ備ハレルニ拘ラ
ス工業ノ爲ニハ一トシテ此ノ如キ機關アルコトナレ予ハ工業銀行ノ組織其他
ノ點ニ付キ聊カ卑見ヲ有スルモノナリ然レトモ本日ハ之ヲ述フルノ暇ナキヲ
以テ次回ニ於テ之ヲ再演セン請フ之ヲ諒セヨ(滿場大喝采)

○講義ノ開始 梅博士高法修正要領ハ先月十五日ヨリ開講シ一木博士行
政法ハ同廿五日ヨリ開講セシヲ以テ前者ハ第二部ニ後者ハ第三部ニ揭
載スヘシ尙ホ佛國政學博士デニモラル氏ノ羅馬法ハ先月三十日ヨリ開
講セシヲ以テ第一部ニ掲載スヘシ

○學位授與 本校講師中左ノ諸氏ハ今回文部省ヨリ特ニ法學博士ノ學位
ヲ授與セラレタリ

- | | | |
|------|-----|------|
| 法律學士 | 寺 尾 | 亨君 |
| 法律學士 | 一 木 | 喜德郎君 |
| 法律學士 | 富 谷 | 銈太郎君 |
| 法律學士 | 河 村 | 讓三郎君 |
| 法律學士 | 松 崎 | 藏之助君 |
| 法律學士 | 田 部 | 芳君 |

○校外生ノ入學ハ何時ニテモ之ヲ許ス講義録ハ初
號ヨリ配布スヘシ但シ缺本ヲ生スルトキハ再版

ニ付スルマテ入學ヲ謝絶スヘキニ因リ志望者ハ
至急入學スルコトヲ要ス

○月謝金ノ切レタルトキハ講義録ノ封皮ニ米〇印
ヲ押捺シ爾後講義録ノ配布ヲ中止スヘキニ付早
速送金スヘシ

○近來全部校外生タル者ハ入學金ヲ要セサルカ如
ク課解セル人多シ然レトモ部門ノ如何ニ因リテ
入學金免除ノ特例アルコトナシ

明治三十二年四月九日印刷
明治三十二年四月十日發行

編輯兼
發行者 上野政雄

印刷者 金子鐵五郎
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子活版所
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

發行所 司法省
指定 **和佛法律學校**

所在 (東京市麴町區富士見
町六丁目十六番地)
電話 (本局千二百七十四番)

明治廿二年十二月九日內務省許可